



大学コンソーシアム
学都ひろさき



大学コンソーシアム学都ひろさき

令和6年度 活動報告集



ごあいさつ

弘前は5 高等教育機関をはじめ、多くの高等学校などが存在する文字通りの学都ですが、単に学生が多いだけでなく、弘前は「学都」と呼ばれるに相応しい風格のある街だと、他の街との比較ではなく、そう思います。加えて、学生は自転車があれば何処にでも行くことができ、「大学コンソーシアム学都ひろさき」の活動も弘前ならではの利点を活用して一層活発になるものと期待しています。

弘前の利点はそれにとどまるものではありません。弘前市からはコンソーシアムの活動に予算面や活動面での支援をいただいております、また、市民の皆さんの多大な協力をいただいております。なにより、大学に対する市民の期待にも大きなものがあると思いますので、大学としても地域との連携による教育研究の在り方を追究することに大きな価値を置いています。

いつも申し上げていることですが、特に大学における教育研究は多様でなければなりません。一大学の努力だけではなく、コンソーシアムを主体として地域の自治体や企業、団体の皆さんと連携して活動できることは、「学都ひろさき」に拠点を置く私たち5 高等教育機関にとって大きなアドヴァンテージです。そのことを最大限に活用して、未来社会を担う人材の育成に邁進していければと願っています。

「大学コンソーシアム学都ひろさき」の活動を多くの方々に知っていただき、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和7年3月

大学コンソーシアム学都ひろさき会長

国立大学法人弘前大学

学長 福田眞作



目 次

ごあいさつ

令和6年度活動報告

I. 教育事業

● 共通授業	1
○ インターンシップ受入	24
● 学生地域活動支援事業	
・ 弘大囃子組（弘前大学）	28
・ 僻地教育研究会（弘前大学）	37
・ 弘前大学ストリートダンスサークルA. C. T.（弘前大学・弘前学院大学）	40
・ ダイザープロダクション（弘前大学）	46
・ 地域活性化サークル（弘前学院大学）	50
・ 弘前医療福祉大学救急救命研究会（弘前医療福祉大学短期大学部）	54
・ waku waku club（弘前医療福祉大学）	58
・ 成果発表会	64

II. 連携推進事業

● 5大学合同シンポジウム	67
● 各大学公開講座等助成事業	
・ 放送大学青森学習センター	71
・ 弘前医療福祉大学短期大学部	72
・ 柴田学園大学短期大学部	73
・ 柴田学園大学	74

III. 学生交流事業

● 学生団体シンポジウム	77
○ ひろさき移動キャンパス	85
○ 学生委員会「いしてまい」活動	87

● 「令和6年度大学コンソーシアム学都ひろさき活性化支援事業費補助金」対象事業

○ 大学コンソーシアム学都ひろさき自主財源実施事業

令和6年度活動報告

I. 教育事業

共通授業

1. 共通授業とは

「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマに、地域の課題を具体的に理解しその解決について自ら考えることが出来る人材を育成することを目的に、オムニバス形式で開講している。本講義は平成25年度から開講しており今年で12年目となる。

また、平成28年度から本コンソーシアム加盟大学の弘前学院大学、柴田学園大学、弘前大学の3大学で本授業を単位として認定している。

2. 概要

○テーマ

地域の課題を理解し、地域の発展を考える。

○目的

青森の地域課題の解決や資源の活用の先事例を学び、その意義や限界を理解し、地域課題の解決や資源の活用に関するプロジェクトを企画・実施できるようになること。

○内容

1日1課題（テーマ）とし、担当教員、弘前市職員、民間企業社員等が地域の様々な課題について講義を行い、その解決策についてのグループディスカッションやグループワーク、フィールドワーク等を行い発表する。

○対象・定員

弘前学院大学、柴田学園大学、弘前大学の学生55名程度

○日時・授業数

令和6年8月20日（火）、21日（水）、22日（木）

9時30分～18時20分

15コマ（1コマ90分×5コマ×3日間）

○会場

ヒロロ4階 市民文化交流館ホール（3日間共通）

3. 受講者数

	20日	21日	22日
弘前学院大学	18名	18名	18名
柴田学園大学	22名	22名	21名
弘前大学	6名	5名	6名
計	46名	45名	45名



令和6年度の募集チラシ

4. 各日の授業

(1) 8月20日(火)

テーマ	性の多様性と学校教育
概要	性に関わる現状と課題や学校教育での取り組みなどを通して、自身を含めた人々の性の多様性と豊かさに対して理解を深める。自分たちが暮らす弘前市の取り組みを踏まえ、これからの地域社会をどのように造り支えていくか、大学生として考える機会とする。
担当教員	弘前大学教育学部 教授 新谷 ますみ
ゲスト スピーカー	弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 主幹 堤 緑
協力 教職員等	弘前大学男女共同参画推進室 助教 山下 梓
授業の流れ	<p>【1コマ目】 9時30分～10時50分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入アイスブレイク&自己紹介 今ハマっているもの、各自の大学名、氏名、学年について ・グループ内の役割決め、ディスカッションの進め方と発表の仕方 ・性の発達と課題（講義）
	<p>【2コマ目】 11時00分～12時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における性に関する教育内容と現状（講義） ・グループディスカッション 学校における性に関する教育の問題について考える
	<p>【3コマ目】 13時20分～15時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性の多様性と人権（講義） ・グループワーク 「マイノリティー」について考える
	<p>【4コマ目】 15時30分～16時30分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弘前市のパートナーシップ制度の取り組み
	<p>【5コマ目】 16時40分～18時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション これからの性の学びと社会の取り組み ・全体発表、講評

授業の様子

1 コマ目 ～アイスブレイク&自己紹介～



今ハマっているものや好きなものなどについて話し合いながら、班活動を楽しむ様子

～性の発達と課題～

性の発達と課題について講義する新谷先生



2 コマ目 ～学校における性に関する教育の問題について～



新谷先生の講義をもとにグループで性教育について議論する学生

授業の様子



グループワークを経て気づいた性教育の課題を発表する学生の様子

3 コマ目 ～性の多様性と人権～

性の多様性と人権について
講義する山下先生



グループワークで紙飛行機を作る学生たち

紙飛行機が舞う会場
このワークでマジョリティ・マイノリティ性について考えを深めた



授業の様子

4 コマ目 ～弘前市のパートナーシップ制度の取り組み～

弘前市のパートナーシップ制度について説明する堤講師



講義を聴講しメモを取る学生の様子



5 コマ目 ～これからの性の学びと社会の取り組み～

これからの性教育と社会についてグループで議論する様子



新谷先生と話し合いながらグループワークを進めることも



～最終発表～



グループディスカッションを通して考えたことを全体に発表している様子

授業の様子



ここまでの授業に関して講評を行う新谷先生



グループメンバーを拍手で称えて一日目の授業が終了



まとめ	<p>共通授業 1 日目は、性教育に関わる学校教育の現状や社会の取り組みについて考える授業だった。</p> <p>授業に参加した学生は、初日ということもあり緊張するかと思われたが、授業の始まりにアイスブレイクを行ったおかげか、和やかな雰囲気の中で活動できていたように見えた。いくつかのグループワークを通して徐々に仲が深まっていったようで、発表時のグループワークでは笑顔が見られることも多かった。</p> <p>講義では、新谷先生の養護教諭としての知見を基に、学校における性教育の現状や課題について効果的に分析されていた。聴講する学生たちにこれまで受けてきた性教育について意識を把握するなど、性教育に関する話題を自分事にさせるような授業の進行もあって、学生も集中して取り組んでいたのではないだろうか。また、弘前大学男女共同参画推進室の山下先生や弘前市企画部企画課ひとつくり推進室の堤講師など、専門家による講義も内容が充実しており、性の多様性や市の取り組みについて深い学びを得ることができたと思われる。</p> <p>一日の講義やグループワークを通して、性に関わる意識について自身を振り返るとともに、これからの学校や社会に何ができるか考える機会になっただろう。また、学生の声にあったように、普段考えることのない事柄について考えを巡らせる貴重な体験ができたのではないかな。</p>
-----	---

(2) 8月21日(水)

テーマ	地域イノベーションをデザインする
概要	地域イノベーションとは地域の人々が主体となって地域資源を活用して開発した革新的なモノやサービスであり、学生が主役になりうる可能性を秘めた分野である。講義やグループワークを通し、青森県や弘前市といった地域に関する地域資源に目を向け、長所や短所を分析し実践しながらイノベーションを学ぶことで、地域について考えを深めてもらう機会とする。
担当教員	柴田学園大学生生活創生学部 特任教授 市田 淳治
ゲスト スピーカー	弘前市商工部産業育成課 主事 楠 桃子
協力 教職員等	柴田学園大学生生活創生学部 教授 兼平 拓道

<p>授業の流れ</p>	<p>【1コマ目】 9時30分～11時00分 ・イノベーションを学ぶ意義 ～産業イノベーションの現状と課題～</p> <p>【2コマ目】 11時10分～12時40分 ・市民社会イノベーションの現状と課題</p> <p>【3コマ目】 13時30分～15時00分 ・イノベーションデザインのケーススタディと手法</p> <p>【4コマ目】 15時10分～16時40分 ・グループワーク イノベーションデザイン演習</p> <p>【5コマ目】 16時50分～18時20分 ・プレゼンテーション、講評</p>
<p>授業の様子</p>	<p>1コマ目 ～イノベーションを学ぶ意義～</p> <div data-bbox="389 1144 831 1330" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>イノベーションについて 説明する市田先生</p> </div> <div data-bbox="839 1111 1366 1487" style="display: inline-block; vertical-align: top;">  </div> <div data-bbox="373 1547 963 1939" style="display: inline-block; vertical-align: top;">  </div> <div data-bbox="979 1659 1378 1839" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>講義で学んだ分析の 手法を実践する学生</p> </div>

授業の様子

2 コマ目 ～市民社会イノベーションの現状と課題～

市民社会イノベーションについて弘前市の事例と照らし合わせて講義する楠講師



講義を聴講する学生たちの様子

3 コマ目 ～イノベーションデザインのケーススタディと手法～

イノベーションデザインについて講義する兼平先生



講義を聴講しメモを取る学生たちの様子

4コマ ～イノベーションデザイン演習～



イノベーション案についてグループで議論する様子

話し合った考えを付箋に書き出し案を整理していく様子



兼平先生からアドバイスを受けながら案をまとめていく場面も

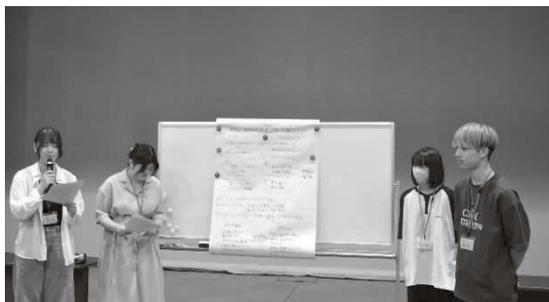


話し合った案を模造紙にまとめていく学生たち



授業の様子

5コマ ～プレゼンテーション 最終発表～



グループ活動を踏まえて
まとめたイノベーション
案を発表する学生

発表を聞く学生の様子



授業の様子



発表を聞いて質問する学生
の様子

発表について講評する市田先生と兼平先生



<p>まとめ</p>	<p>共通授業 2 日目は、地域イノベーションの現状やデザインの方法について考える授業だった。</p> <p>一日を通してグループワークに多くの時間を取っていたこともあってか、学生たちも班活動を楽しみながら授業を行うことができていたように思える。市田先生が専門として行っている「りんごペクチンとセラミド」に関する研究などの実例的な話から、SWOT 分析や MVV のようなイノベーションだけでなく人生設計を考えるうえでも役に立つような手法に関する話など、専門性がありつつも自分事として理解しやすい内容となっていたのではないかな。弘前市商工部産業育成課の楠講師による講義では、実際に青森県や弘前市が行っているイノベーションに関する取り組みについて説明していただき、学生からも「身近でありながら知らなかったことを知れてよかった」と反応をもらったことから有意義な時間だったと言えるだろう。兼平先生の講義では、その後のグループワークにつながる内容を学び、学生たちも集中して聴講していたようであった。イノベーションをデザインするグループワークでは、楽しみながらも真剣に案をまとめる姿が見受けられ、充実した内容だったのではないかな。</p> <p>一日の授業やグループワークを通して、地域の長所や短所、資源について考えを深めたことで、学生たちはこれまでとは異なる地域の見え方に気づいたのではないだろうか。また、実際に青森県や弘前市といった自分たちの地域が行っている取り組みについても理解したことで、より自分事として地域を見ることができるようになっただろう。</p>
------------	--

(3) 8月22日(木)

<p>テーマ</p>	<p>社会的つながりとウェルビーイング</p>
<p>概要</p>	<p>近年取り上げられることが増えているウェルビーイングについて、社会的つながりという観点から考える。この背景にあるのは、高度経済成長期以降に生じた、ウェルビーイングについての考え方の変化と、社会的つながりの変化である。</p> <p>ウェルビーイングについての関心の高まりは近年のことであるが、同種の問題は、2000、2010 年代頃から増加した幸福度研究、さらには 1970 年代に行われた社会指標研究においても議論されてきた。その背景にあるのは、経済成長による価値観の変化である。他方、社会的つながりについては、高度経済成長期以降に進行した個人化と、それに伴って地縁、血縁によるつながりが弱体化してきた。このような社会的つながりを維持、促進することにも大きな意味があるが、本講義では、そうした自然発生的なつながりを超えた社会的つながり（機能集団的なつながり、テーマ型コミュニティ的なつながり）の意義と形成について考えたい。</p>

担当教員	弘前学院大学社会福祉学部 教授 藤岡 真之
ゲスト スピーカー	弘前市市民生活部市民協働課 主幹兼係長 菊池 景子
授業の流れ	<p>【1コマ目】 9時30分～11時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェルビーイングと社会的つながり（講義） ウェルビーイングについて、その内容・背景等を理解し、ウェルビーイングの重要な要素の一つである社会的つながりとの関係を理解する。
	<p>【2コマ目】 11時10分～12時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的つながりの種類と変化（講義） 社会的つながりの種類、およびその変化について理解し、テーマ型コミュニティ的な社会的つながりの意義を理解する。
	<p>【3コマ目】 13時30分～15時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弘前市の事例 「市民参加型まちづくり1%システム」について市民協働課職員に説明していただく。このような具体的な事例を知ることで、学生には、テーマ型コミュニティ的な社会的つながりの意味について、より深く理解してもらう。
	<p>【4コマ目】 15時10分～16時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワーク 社会的つながりを形成するための具体的方法を考える ①個人化、テーマコミュニティについて、グループ内でそれぞれの意見を出し、発表する ②あったらいいなと思うテーマコミュニティを具体的に考える
	<p>【5コマ目】 16時50分～18時20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表と質疑 ①発表・グループ間での検討 ②質疑応答 ③講評・総括

授業の様子

1 コマ目 ～ウェルビーイングと社会的つながり～

ウェルビーイングと社会的つながりについて講義する藤岡先生



講義を聴講しメモを取る学生たちの様子



2 コマ目 ～社会的つながりの種類と変化～

スライドを用いた講義の様子



講義が行われている会場の様子



授業の様子

3コマ ～弘前市の事例紹介「市民参加型まちづくり1%システム」～



「市民参加型まちづくり1%システム」について説明する菊池講師

弘前市の取り組みについて質問・意見を述べる学生の様子



学生からの質疑に答える菊池講師

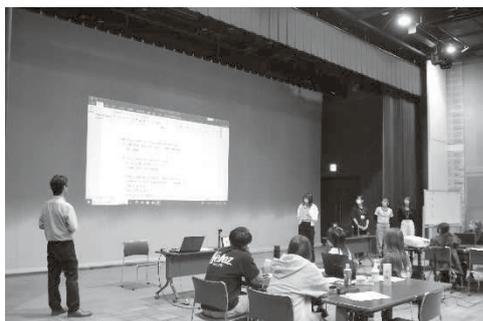
4コマ ～社会的つながりを形成するための具体的方法を考える～

個人化、テーマコミュニティについてグループで議論する様子



グループワークで出した意見を発表する学生の様子

5コマ ～最終発表～



プロジェクターを用いて発表している様子



発表に対して質問する学生の様子

授業の様子

質問に回答する学生の様子



学生の発表に対してコメントする藤岡先生



<p>まとめ</p>	<p>共通授業3日目は、社会的つながりとウェルビーイングについて考えを深める授業だった。</p> <p>昨日と同じグループということもあり、すでに仲が深まった班で活動できたことで、学生たちに緊張は感じられず活発に授業を行うことができたように思える。藤岡先生による講義では社会的つながりとウェルビーイングの関係性や個人化、テーマコミュニティといった概念について、サークルや家族関係など学生にも分かりやすい視点から説明していただき、学生たちにも伝わりやすい内容となっていたのではないかと。弘前市市民生活部市民協働課の菊池講師による「市民参加型まちづくり1%システム」の説明では、学生団体も参加していると学んだからか、学生からのコメントで「自分も挑戦してみたいと思った」といった反応があり、学生たち自身も今回の講義が印象に残ったのではないだろうか。</p> <p>グループワークでは「あったらいいと思うテーマコミュニティ」について発表し、ユニークなものから実現度の高いものまで、様々なアイデアが生まれていた。グループワークを通してテーマコミュニティがもたらす社会的意義まで考えを深めることができていたように思う。</p> <p>一日の講義やグループワークを通して、自分たちの幸福にテーマコミュニティをはじめとした社会的つながりがどう関係しているのか、個人化とはどのような現象なのかを学び、物事の多面性や人によってももの感じ方が全く違うということに気づかされたのではないだろうか。</p>
------------	--

5. 単位認定者

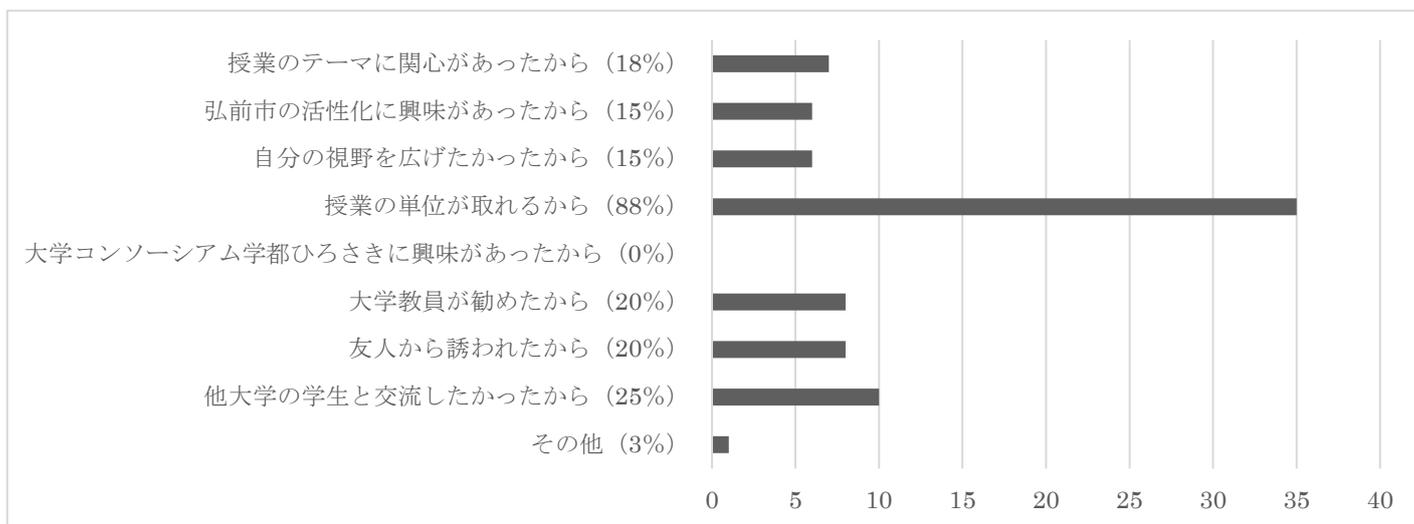
- 弘前学院大学：17名
- 柴田学園大学：22名
- 弘前大学：6名

6. 授業アンケート

- アンケート実施日 8月22日(木)
- 回答者数/出席者数 40名/46名
- 回答率 86.96%

【今年度の各授業について】

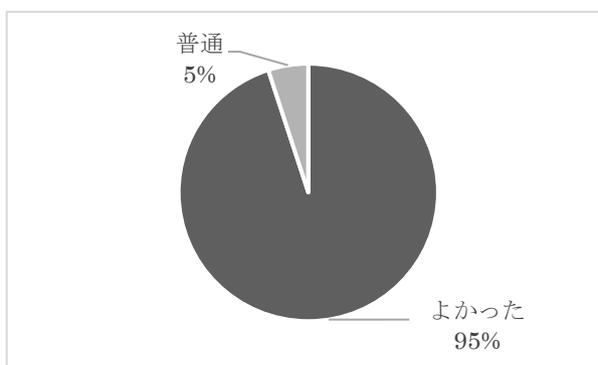
○なぜ授業に参加しましたか。(複数回答可)



(人)

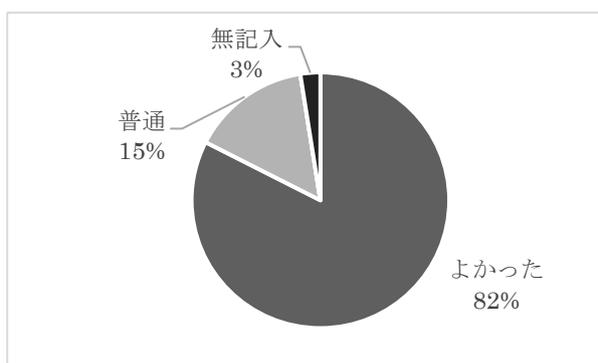
○1日目テーマ「性の多様性と学校教育」について

	回答数
1. よかった	38
2. 普通	2
3. よくなかった	0
4. 無記入	0
計	40



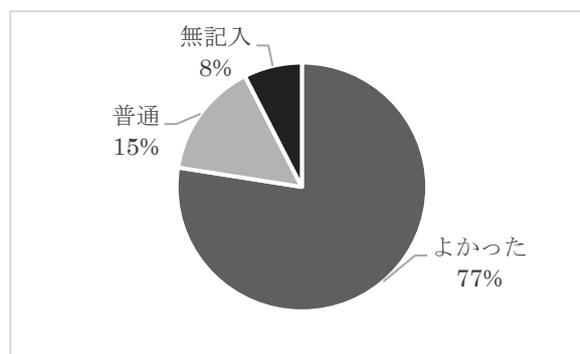
○2日目テーマ「地域イノベーションをデザインする」について

	回答数
1. よかった	33
2. 普通	6
3. よくなかった	0
4. 無記入	1
計	40



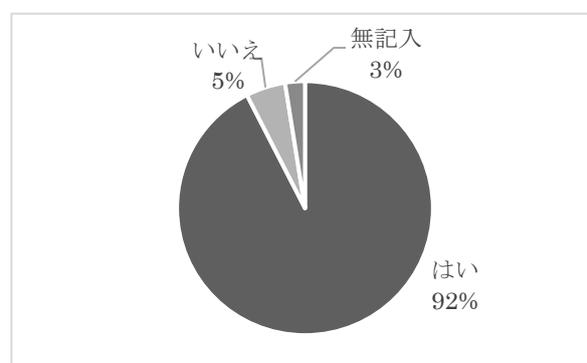
○3日目テーマ「社会的つながりとウェルビーイング」について

	回答数
1. よかった	31
2. 普通	6
3. よくなかった	0
4. 無記入	3
計	40



○授業を通して地域の課題に興味を持ちましたか。

	回答数
1. はい	37
2. いいえ	2
3. 無記入	1
計	40

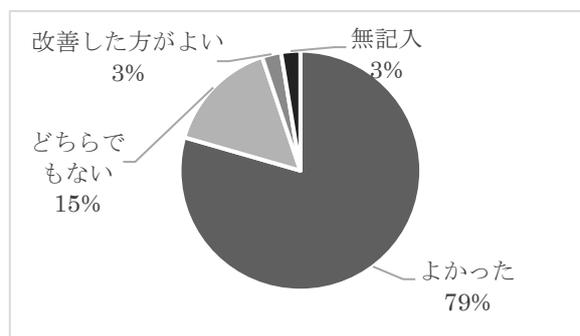


○あなたが考える地域の課題を記入してください。(一部抜粋)

- ・ 少子高齢化
- ・ 若者の地元離れ
- ・ 県外への人口流出
- ・ 就職先の少なさ
- ・ 学べる学問、分野の少なさ
- ・ 店の大量閉店
- ・ 農家の高齢化
- ・ 地域の活性化が進まない
- ・ 市民が地域に参加しようとする意識が少ないこと
- ・ 市役所の活動を知っている市民が少ないこと
- ・ 働き盛り世代が少ない
- ・ 企業が少ない

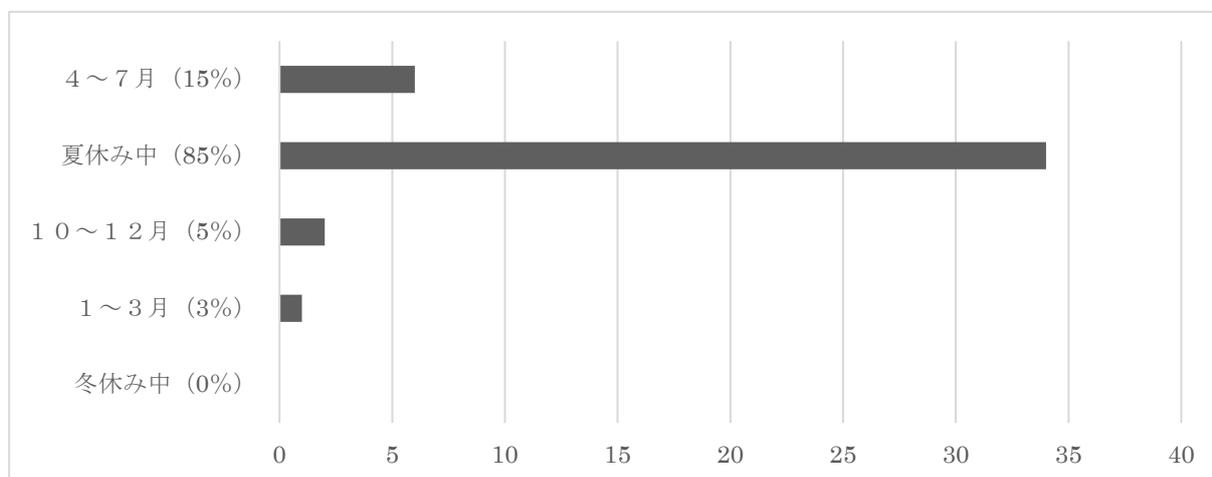
○グループディスカッション・発表の時間割り振り等について

	回答数
1. よかった	32
2. どちらでもない	6
3. 改善した方がよい	1
4. 無記入	1
計	40



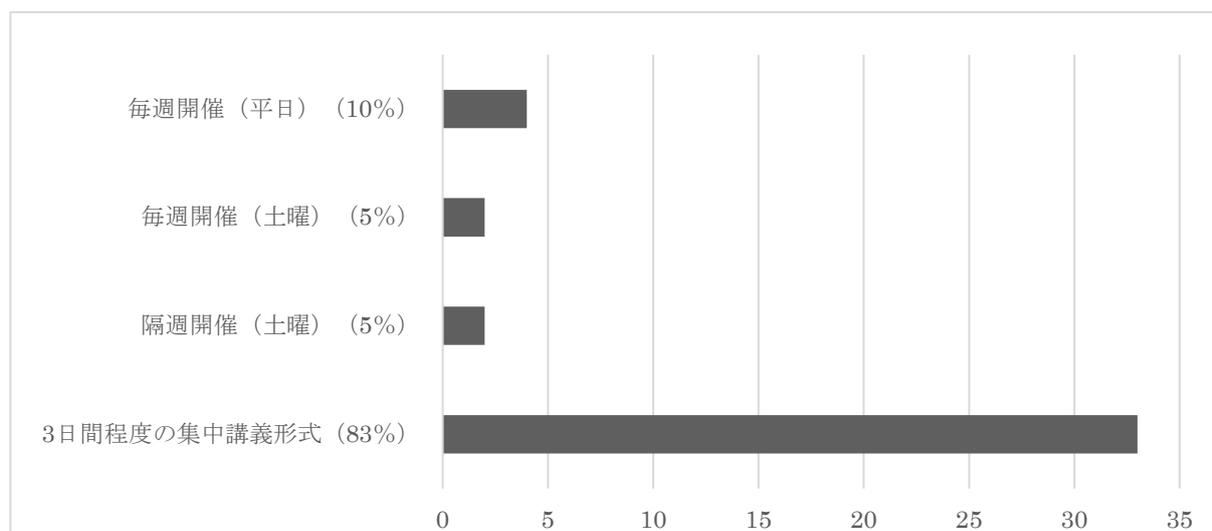
【来年度の授業について】

○開催時期について、あなたが望ましいと思う時期について教えてください（複数回答可）



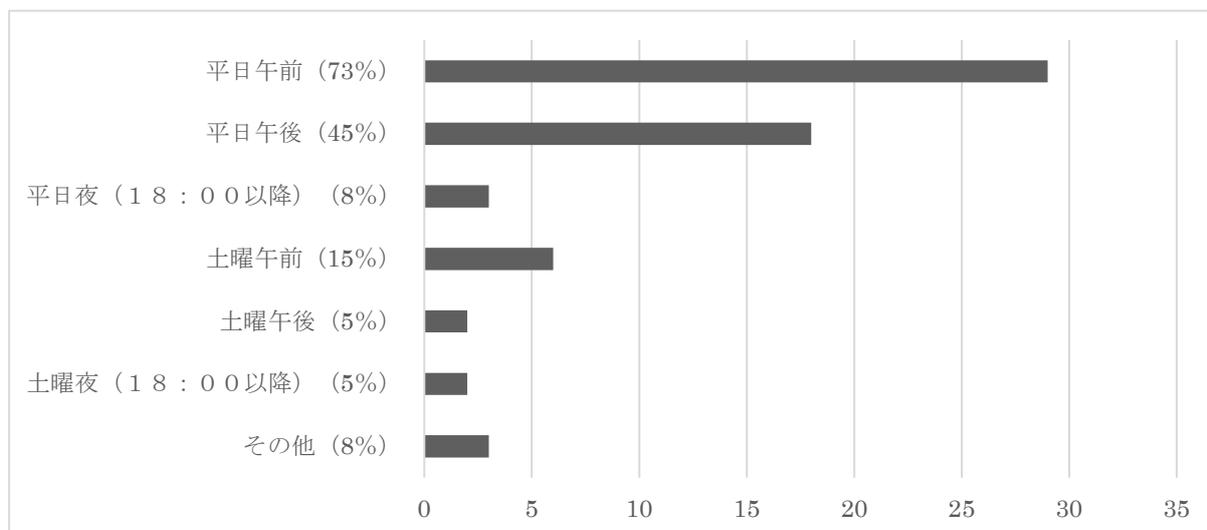
(人)

○開催形式について、あなたが望ましいと思う開催形式について教えてください（複数回答可）



(人)

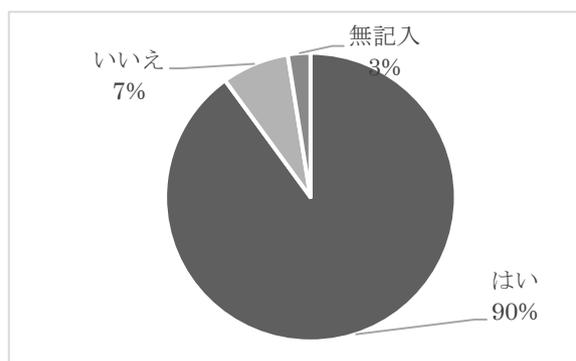
○開催時間について、あなたが望ましいと思う時間について教えてください（複数回答可）



(人)

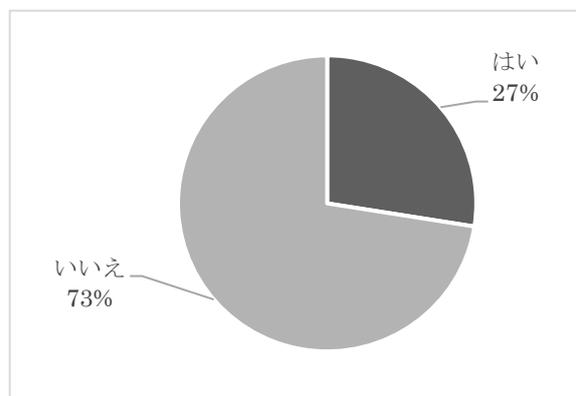
○今回の講義内容・形式の場合、同級生や後輩に勧めますか。

	回答数
1. はい	36
2. いいえ	3
3. 無記入	1
計	40



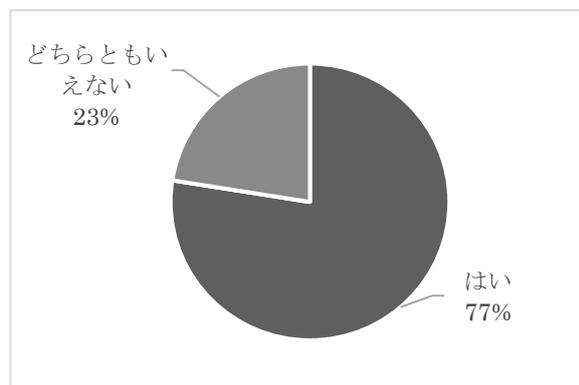
○これまでに他大学の学生と、授業や課外活動などを通じて、交流を図ったことはありますか。

	回答数
1. はい	11
2. いいえ	29
3. 無記入	0
計	40



○今後も他大学の学生と交流を図っていきたいと思いますか。

	回答数
1. はい	31
2. いいえ	0
3. どちらともいえない	9
4. 無記入	0
計	40



○授業の感想や要望、意見等（一部抜粋）

良かった点

- ・ 大学で専門外のことを学ぶ機会は少ないので他の人と意見交換しながら学べてよかった。講義のスライドや資料が渡って分かりやすい。
- ・ 最初は緊張したけど一緒に活動するうちに緊張が解け楽しかったし達成感を感じた。他大学の学生と関わることがなかったが、三日間で仲良くなれた・交流が広がった。
- ・ 普段は学習しない分野について自他校の教授や実際に働いている市役所の方の話を聞いて面白かった。既習の分野についても新しい角度や考えを改めるきっかけとなり良い機会だと感じた。
- ・ 他大学と交流でき自分が学ぶ以外の分野を学ぶことができ自分の視野が広がった。10班もあるため自分たちでは思いつかなかった意見がたくさんあり面白かった。自分が誰とでも喋れることを再認識できたし、1日目に関しては大変勉強になった。
- ・ 地域の良い点、悪い点を見つけられた。
- ・ グループワークを通して他大学の学生と関わることができた。大学の授業では学ぶことのできない内容を学ぶことができた。
- ・ 様々な視点からの授業を受けることができた。
- ・ 他者の意見も聞くことで、自分の視野を広げ、考えを改めることができたのが良かった。地域の課題を深く考え、どうしたら解決できるのかという普段は考えないようなことを考える良い機会になった。

良くなかった点

- ・ 班を三日間変えてほしい。レポートのクラスルームやメールで質疑応答ができるようにしてほしい。
- ・ 時間が長引いた。履修登録時にテーマを知りたい。5コマ×3が体力的にきつい。
- ・ 電子媒体による資料は事前に配ってほしい。
- ・ 自分の班以外の人とももう少し交流できる機会を設けたらいいのではないかと。
- ・ 内容が難しい。グループディスカッションが思いのほか少ない。
- ・ 自分の意見を伝えるのが苦手な人もいるので、例えばスマホで意見を伝えられるシステムがあればよいと感じた。
- ・ 会場内のネット環境が悪く資料を手元に置きながら授業を受けられなかった。
- ・ スライドが見にくい席が多い。
- ・ 手元に資料があった方が資料を見ながらメモを取ることができるがスクリーンを見ながらだとメモを取りづらかった。

7. 授業の成果

今年度は、「性の多様性と学校教育」、「地域イノベーションをデザインする」、「社会的つながりとウェルビーイング」という3テーマに関する授業を行い、3日間を通して充実した内容となった。

授業はどれも教員や市役所職員などの専門家による講義とグループワークによって構成されており、新たな知識を深めながらグループでのディスカッションや発表を通すことで、より実践的な学びを得る機会となった。

学生からも「他大学、他学年との交流を通して自分になかった発想やものの捉え方を聞くことができた」「専門外のことも深く学ぶことができた」などの感想をもらい、グループワークによって他者と交流しながら身の回りの課題について考えを深めてもらうことができたと言えるだろう。また、3テーマを通して自分自身や地域、社会など、普段見過ごしてしまうような事柄に対して目を向けるということを経験し、学生たちも今後の学生生活に生きるような気づきを得られたのではないかと。

8. 次年度開講に向けての課題

進行の時間設定に関しては、「時間通りに終了しなかったのが不満である」「もっと話し合いの時間が欲しかった」といった旨の意見が見られたが、実際にグループでの話し合いがまとまらず時間を延長する場面やその結果として時間通りに進行できない場面、質疑応答が駆け足になってしまふといった場面があり、グループワークのディスカッション時間を調整するなど、授業進行の時間設定に気を配る必要があると考えられる。

授業の内容に関しては、「せっかく他大学の学生と集まっているのもっとグループワークを行いたかった」といった旨の意見があり、講義の中に小さなグループディスカッションを織り交ぜるなど、さらにグループで活動する機会を増やしてみてもいいのではないかと。

最後にアンケート集計に関して、効率化のためGoogle Formなどの機能を用いてアンケートを集計するように変更してはどうだろうか。

編集

①大学コンソーシアム学都ひろさき 事務局

②インターンシップ学生

菅原 大嵩（弘前大学） 須郷 朱里（弘前大学）

インターンシップ受入

1. 概要

○目的

具体的な事業運営を通じて、学生の企画立案力やマネジメント力を養うことに加え、自治体と大学コンソーシアムが連携することの意義を模索し、地域課題の把握、地域志向力の向上を目指す。

○業務内容

大学コンソーシアム学都ひろさが主催する、集中講義「共通授業」の運営業務
・事前準備・当日運営・授業終了後処理

○受入人数

弘前大学学生 2名

○期間及び時間

令和6年7月29日（月）～8月30日（金） 合計88時間

2. 業務内容

(1) 事前準備

ガイダンス、名刺作成、挨拶まわり、共通授業会場下見、関係者による全体打合せ参加、授業の準備（グループ割やネームプレート、会場掲示・配布用資料の作成など）等



挨拶まわりの様子



「共通授業」打ち合わせの様子



共通授業に向けた
書類作成の様子



会場設営、準備の様子



全体打ち合わせでの名刺交換



全体打ち合わせの様子

(2) 当日運営



受付をする様子



授業に使用する機器をチェックする様子



授業内容をメモする様子



授業風景の撮影をする様子

(3) 授業終了後



インターンシップ終了報告の様子



インターンシップ生と事務局の方々

(4) インターンシップ参加学生の感想

○弘前大学人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース3年 須郷 朱里

本インターンシップを通じて、自分が知らないことがたくさんあることに気づき、社会人として求められる仕事をもっと学びたいという意欲が増した。

インターンシップの内容は、PCでの資料作成、会議の準備、共通授業の会場設営など多岐にわたっていた。初めはPCスキルに不慣れであったが、WordとExcelを使って色々な形式の資料を作成したことで徐々に抵抗感が薄まった。職員の方から効率的な操作方法を教えていただき、作業の幅を広げることができた。また、講義を担当する教授方との打ち合わせでは、相手を尊重する、丁寧な「社会人のコミュニケーション」を間近で見ることができ、非常に参考になった。

分からないことを素直に聞き、主体性を持って取り組むように心掛けた。これまでの学生生活で体験したことのない仕事が多くあり、何度も疑問点が浮かんだ。その疑問点を放置せず、自分の学びに変えたいと思い、積極的に質問できた。PCスキルや印刷機の取り扱い方、手際の良い会場設営の手順など、自分から質問したことで、教えていただいた内容がより一層印象に残った。

本インターンシップで得た社会人としての基礎力を今後の生活に活かしていきたい。また、素直さと向上心を忘れず、勉学や仕事に向き合うことを徹底していきたい。

○弘前大学人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース3年 菅原 大嵩

今回、大学コンソーシアム学都ひろさきでの一か月に及ぶインターンシップを経て、ワードやエクセルといったオフィスソフトの使い方から業務に対する姿勢など、幅広い事柄について考えを深め、気づきを得ることができました。

このインターンシップでは名刺作りや挨拶回りから始まり、「共通授業」の運営のためのミーティング参加や資料・班割作成などの事前準備、当日の授業運営、事後の報告書作成まで、非常に多種多様な業務に携わることができ、充実した時間を過ごすことができたと思います。これらの活動を通して学んだことは数多くありますが、その中でも特に印象深いのは、「共通授業」という一つの授業に対して、授業を担当する教員や講師の方々は勿論のこと、その教員・講師が所属する組織、会場となる施設の管理者の方々など、表に見えづらい部分にも協力していただいている方がいること、そして全員がより良い授業のためリアルタイムで試行錯誤しながら運営にあっているのだと気づけたことです。これは、我々学生が普段受講している講義や就活関連のイベントなど、多くのことに当てはまると思います。日常的に享受しているモノ・サービス、それらに関わる仕事についてここまで考えを深めることができたのは、多くの人と関わり合いながら運営側という立場で実務を経験したからであり、まさにインターンシップで得られた成果と言えるのではないのでしょうか。

最後になりますが、インターンシップを担当していただいた天坂さん、西野さん、横山さん、事務局の皆様には大変お世話になりました。いつも優しく気にかけていただいたことで、緊張感を保ちつつも和やかな空気で活動することができたと思います。この一か月間、皆様から多くのことを学ばせていただきました。改めて、ありがとうございました。

3. インターンシップ受入の成果

今年度は、弘前大学の学生2名をインターンシップで受け入れた。社会人の中に踏み込むことは、学生には緊張する場面でもあるため、始めは馴染めるかどうか事務局側としても心配はあったが、学生自身の向上心や成長が著しく、自然と良い関係を築くことが出来た。

特に共通授業に主催者側として参加することにより、自分達が普段受けている側の授業の裏では、様々な人の協力があること、準備にも時間がかかることなど、貴重な社会体験をすることが出来たと、インターンシップ生自身も感じる事が出来ていた。

学生地域活動支援事業

1. 学生地域活動支援事業とは

学生が企画立案したまちづくり、地域づくりの活動に係る経費の一部を支援する公募型の事業である。地域課題の解決や地域の活性化に繋がる活動を支援し、学生による魅力あるまちづくりの推進を図ること及び地域活動を通じて、学生が地域の一員としての社会的力量を形成することを目的に実施する。

一定の申請条件を満たせば応募でき、応募された活動は本コンソーシアムが実施する審査を経て助成を決定する。

2. 各採択団体、事業及び実績報告

(1) 弘大囃子組（弘前大学）

1	事業名称
	弘前の祭りの魅力に触れてもらおう！
2	事業実施概要
	<p>①実施した事業の概要</p> <p>祭りの魅力を弘前市に住む人たちに再認識してもらい、祭り離れを解消することを事業目的とし、地域のイベント、施設等での囃子のパフォーマンスや、ねふた笛講習会等祭り囃子に身近に触れられる機会を作った。</p> <p>②どのような点を地域課題としてとらえて実施したか</p> <p>現状として「祭り離れ」という単語をよく耳にする。そして弘前市民も例外でなく祭りなどのイベントに参加できていないということが課題である。また三浦、大谷、立田（2009）は囃子の後継者問題が祭りの運営に必要不可欠と述べている。今日祭りに参加する人口、参加する団体数は減少の一途を辿っており、その要因の一つとして考えたのが「気軽に鑑賞、体験する機会がない」という現状である。これによって自らの住む地域の祭りへの興味関心が薄れてきているといえる。これを解消するために当団体が発信源となり、祭り等のイベントを身近に体験できる機会を作ることを目的とし実施した。</p> <p>③どういった活動が地域活性化につながると考え実施したか</p> <p>この事業を行うことにより、弘前市民が当たり前すぎて誇りに思っていなかったねふたまつりの魅力を再認識させることができる。また、魅力は感じていても、実際に触れる機会がなかった人たちにも文化芸術活動に触れるきっかけとしてもらい、祭りをよりにぎやかなものにする。弘前市民の祭りへの関心を高めるのみならず、自らのふるさとである土地の文化を愛するところを育む。</p> <p>④事業を成功させるために何を検討し実施したか</p> <p>自分たちがパフォーマンスをするイベントの告知やその参加の様子を SNS で告知した。イベントでのステージ発表の際、ねふたまつりの掛け声を実際に観客にもしてもらい、会場全体を巻き込み、祭りの際に感じる一体感を感じてもらった。また当団体には県外出身者も多くいることを活かし、パフォーマンス時間にゆとりがあるときは県外出身者の自己紹介に「弘前を含め祭り囃子を始めたきっかけ」の話題を盛り込んだ。それによって弘前の囃子、祭りの魅力を再認識してもらったきっかけを作った。ねふた笛講習会を学内のみならず、学外公共施設ヒロロでも計画、実施した。</p>

⑤事業を実施したことにより、どのような成果が得られたか

笛講習会で行ったアンケートから、当団体の演奏パフォーマンスを見て、笛講習会に参加した人や、笛講習会に参加後に実際にねぶた祭りに囃子方として参加した人もいたことがわかった。これらのことから、地域での演奏パフォーマンスや笛講習会を実施したことで、祭りを身近に感じてもらい、弘前の祭りへの愛着を持ってもらうことができたと考える。

また、今年度よりヒロロでの文化交流ホールで笛講習会を行ったことで、学生のみならず、地元の人が参加しやすい環境を作ることができ、より幅広い世代に祭り囃子に触れてもらうことができた。したがって、弘前市民の祭りへの関心を高めることや、祭り囃子を体験する機会を作れたことで、弘前ねぶたまつりの活性化に貢献することができたと考える。

3 事業実施報告

【実施スケジュール】

6月

●SHIROFES. 2024

日時：6月29日（土） 10:00～10:20

場所：弘前公園

対象：SHIROFES. 2024 観覧者

内容：ステージにて演奏を行う。

参加人数：10人

●弘前大学附属幼稚園演奏依頼

日時：6月24日（月）、7月12日（金）の2日間

各日 12:30～13:30

場所：弘前大学附属幼稚園

対象：弘前大学附属幼稚園の年長さん 約20人

内容：ねぶた囃子の太鼓を教えたり演奏を見せたりする。

2日目には幼稚園周辺でねぶた運行を行う。

参加人数：6月24日（月）5人、7月12日（金）10人

●時敏小学校笛講習会

日時：7月1日（月）13:05～14:40、7月8日（月）10:25～12:00の2日間

場所：時敏小学校

対象：時敏小学校の4～6年生 約100人

内容：小学生にねぶた囃子を教えたり演奏を見せたりする。

参加人数：7月1日（月）8人、7月8日（月）10人

●和徳小学校笛講習会

日時：6月24日（月）、7月1日（月）、7月8日（月）の3日間

各日 13:40～14:25

場所：和徳小学校

対象：和徳小学校の4～6年生 約100人

内容：小学生にねぶた囃子を教えたり演奏を見せたりする。

参加人数：6月24日（月）4人、7月1日（月）3人、7月8日（月）7人

7月

- 大学内講義でのパフォーマンス
 - 日時：7月5日（金） 16:00～17:30
 - 場所：弘前大学
 - 対象：対象講義受講者
 - 内容：津軽地方の祭りに触れ実際の演奏を見せながら歴史や囃子の演奏方法等を学んでもらう。
 - 参加人数：12人

- 西弘ちょうちん祭り
 - 日時：7月14日（月） 19:00～22:30
 - 場所：西弘町内
 - 対象：西弘ちょうちん祭り参加者
 - 内容：祭り囃子を演奏し、祭りを盛り上げるとともに、津軽の囃子を知ってもらう。
ねぶた運行の囃子方としての参加
 - 参加人数：43人

- サクラスリハケアサービス演奏依頼
 - 日時：7月15日（月） 15:00～15:30
 - 場所：サクラスリハケアサービス
 - 対象：サクラスリハケアサービス利用者
 - 内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、ひと足先に祭りの雰囲気を感じてもらおう。
 - 参加人数：8人

- 教育学部教員の会演奏依頼
 - 日時：7月17日（水） 19:00～19:30
 - 場所：スコーラム
 - 対象：弘前大学教育学部教員
 - 内容：津軽地方のお囃子を演奏する。
 - 参加人数：4人

- 生活支援多機能ホームパインの雫演奏依頼
 - 日時：7月20日（土） 14:00～15:00
 - 場所：生活支援多機能ホームパインの雫
 - 対象：施設利用者
 - 内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。
 - 参加人数：6人

- 囃子組主催笛講習会（ヒロロ）
 - 日時：7月20日（土） 18:00～20:00
 - 場所：ヒロロ 4階文化交流会館
 - 対象：弘前市民
 - 内容：弘前行進の横笛の吹き方を教え、お囃子を身近に感じてもらう。
弘大ねぶたへの参加も促す。
 - 参加人数：10人

●囃子組主催笛講習会（弘前大学 50 周年記念会館）

日時：7 月 22 日（月）、7 月 23 日（火）

各日 18:00～20:00

場所：弘前大学 50 周年記念会館 岩木ホール

対象：弘前大学生および弘前市民

内容：弘前行進の横笛の吹き方を教え、お囃子を身近に感じてもらう。

弘大ねふたへの参加も促す。

参加人数：全 15 人

●弘大ねふた囃子練習会

日時：7 月 24 日（水）、7 月 25 日（木）、7 月 26 日（金）

各日 18:00～19:00

場所：弘前大学保健センター前

対象：弘大ねふた運行参加者

内容：弘大ねふた運行に一般参加する地域の方にお囃子を教える。

参加人数：全 36 人

8 月

●弘前ねふたまつり

日時：8 月 1 日（木）

対象：観覧する人、そのほか祭りに参加する弘前市民

内容：祭りに囃子方として参加し、祭りを盛り上げ地域の人との交流を深める

●原々平夏祭り演奏依頼

日時：8 月 18 日（日） 11:00～11:30

場所：千年交流センター

対象：原ヶ平夏祭り来場者

内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。

参加人数：9 人

●千年園（障害者支援施設）夏祭り演奏依頼

日時：8 月 24 日（土） 17:00～17:30

場所：千年園

対象：施設利用者

内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。

参加人数：7 人

●平成の家（介護老人保健施設）演奏依頼

日時：8 月 28 日（水） 13:00～13:30

場所：平成の家

対象：施設利用者

内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。

参加人数：4 人

9月

●国吉

日時：9月1日（日） 11:00～11:30
 場所：国吉神社
 対象：神事参加者
 内容：津軽地方の祭りを演奏し、祭りを盛り上げる
 参加人数：8人

●三岳夏祭り演奏依頼

日時：9月7日（土） 17:30～18:00
 場所：三岳公園
 対象：夏祭り来場者
 内容：津軽地方の祭りを演奏し、祭りを盛り上げるとともに、
 ねふた祭りへの関心を高めてもらう。
 参加人数：5人

●公益社団法人農業農村工学会交流会演奏依頼

日時：9月10日（火） 19:00～19:30
 場所：アートホテル
 対象：農業農村工学会
 内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。
 参加人数：6人

●おうよう園（特別介護老人ホーム）夏祭り演奏依頼

日時：9月15日（日） 14:30～15:00
 場所：おうよう園
 対象：施設利用者
 内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。
 参加人数：4人

●松原苑敬老会演奏依頼

日時：9月20日（金） 11:00～11:30
 場所：松原集会所
 対象：施設利用者
 内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。
 参加人数：7人

●おいで弘前演奏依頼

日時：9月21日（土） 13:00～16:00
 場所：弘前観光館
 対象：来場者
 内容：津軽地方の祭り囃子を演奏する。また、来場者に横笛を教える。
 参加人数：6人

11月

●ひろさきりんご収穫祭

日時：11月3日（日）11:00～11:25

場所：りんご公園

対象：ひろさきりんご収穫祭の来場者

内容：津軽地方の祭りを演奏し、祭りを盛り上げるとともに、
ねぶた祭りへの関心を高めてもらう。

参加人数：10人

●弘前れんが倉庫美術館

日時：11月3日（日）13:30～15:00

場所：弘前れんが倉庫美術館

対象：弘前れんが倉庫美術館の来館者

内容：津軽地方の祭りを演奏し、ねぶた祭りへの関心を高めてもらう。

参加人数：10人

12月

●おうよう園忘年会祝い

日時：12月23日（火）14:00～14:30

場所：おうよう園

対象：施設利用者

内容：津軽地方の祭り囃子を演奏し、祭りの雰囲気を楽しんでもらう。

参加人数：4人

4 補助金による支援の効果

補助金の支援を受けたことによって、ヒロロでの笛講習会や大学での笛講習会を実施できた。そのことで、弘前市民の祭り囃子への関心を高めることや、囃子演奏を身近に感じてもらうことができた。また、講習会の参加者が弘大ねぶたに参加する例もあり、昨年よりも囃子方の人数を増やすことができた。このことで、弘前ねぶたまつりの活性化に寄与することができたと考える。また、笛講習会に向けて例年よりも塩ビ笛を多く作成することができ、より多くの方に笛を体験してもらうことができた。

5 反省点・改善点

- ・笛講習会の周知において、学校内のチラシ掲示やSNSでの告知のみならず、ヒロロや町人会掲示板などでの掲示をし、広く周知するべきであった。
- ・笛講習会について、弘前市民は参加者の32%にとどまったため、弘前市民を呼び込む工夫が必要である。しかし演奏披露を見た小学生が親とともに笛講習に参加したケースもいくらか見られたため、小学生へのアプローチをより行うと当事業の効果が出てくると考えられる。
- ・また来年もアンケートを実施し、アンケート質問項目に「以前の笛講習会には参加したか」「去年の祭りには参加したか」の質問と囃子の経験者、未経験者を質問項目に追加する。このアンケートを継続して行い、来年度以降の事業に繋げる。

6 特記事項

特になし。

7 事業実施時の写真



和徳小学校笛講習会

日時：6月24日（月）、7月1日（月）、7月8日（月）



弘前大学附属幼稚園演奏依頼

日時：7月12日（金）



西弘ちょうちん祭り

日時：7月14日（月）





サクラスリハケアサービス演奏依頼
日時：7月15日（月）



囃子組主催笛講習会（ヒロロ）
日時：7月20日（土）



囃子組主催笛講習会（弘前大学50周年記念会館）
日時：7月22日（月）、7月23日（火）



弘大ねふた運行
日時：8月1日（木）

(2) 僻地教育研究会 (弘前大学)

1	事業名称
	常盤野小中学校運動会のお手伝い
2	事業実施概要
	<p>①実施した事業の概要</p> <p>常盤野小中学校運動会のお手伝い (主な役割) 写真撮影・用具の出し入れ・ゴールテープを持つ・アナウンス・順位を記録する・設営と後片付け・ダンス披露</p> <p>②どのような点を地域課題としてとらえて実施したか</p> <p>常盤野小中学校は児童生徒数、教職員数共に少ない学校であり、人手不足により行事での裏方の仕事に手が回らない状況である。そのため大学生でもできる(用具の出し入れや写真撮影等)手伝いを目的として活動している。</p> <p>また、本来保護者が担うべき仕事を学生が担うことで運動会に保護者が来校しやすくなり、子どもたちのやる気や保護者との時間を増やすことができると考える。</p> <p>③どういった活動が地域活性化につながると考え実施したか</p> <p>学生が裏方を担当することで教師や児童生徒が自分の役割に集中することができ、運動会という子ども時代の一大イベントの時間を先生や保護者の方々に自分の子どもとの時間を更に増やしてもらい、子どもたちと接する時間が増えその子に対する理解度が高くなることで、それぞれの子どもの良い面、改善すべき点が見つかり、よりよい指導につながることができると考える。また、大学生が主体的に参加した競技(ダンス披露やリレー等)では、大学生が本気で取り組むことによって児童生徒の行事に取り組む意欲が刺激されたと考える。実際に行事後の校長先生からの総評で特に賞賛された。</p> <p>④事業を成功させるために何を検討し実施したか</p> <p>あらかじめ学校から頼まれていたお手伝いを誰が担当するのかを振り分けた。競技の中にある大学生のダンスでは小学生や保護者の方々でもわかるような選曲をし、場を盛り上げるよう取り組んだ。運動会が終わった後には来た人の顔やどのような人が来たのかを知ってもらうために感想文をつくり送った。</p> <p>⑤事業を実施したことにより、どのような成果が得られたか</p> <p>今年度もお手伝いをするのでスムーズに運動会を進めることができ、教職員や児童生徒、地域の方々と共に運動会を盛り上げることもできた。また、参加した23人のメンバー一人ひとりが大道具運びや照明などの裏方、アナウンス等その他のお手伝いを担当することによって教職員が負担する部分が少なくなり、より他の作業に集中することで、子どもたちのサポートに費やす時間を増やすことができた。人手が足りなさそうなどころには、大道具の係になっている5人以外のメンバーも積極的に手伝いに行ったことが、より教職員の負担を減らすことに繋がったと思う。</p>

3 事業実施報告

①場所：常盤野小中学校

対象：常盤野小中学校の教職員及び生徒児童

参加人数：大学生 24 人

男子：7 人 女子：17 人

大学 4 年生：1 人 大学 3 年生：7 人 大学 2 年生：11 人 大学 1 年生：5 人

常盤野小中学校の児童生徒 25 人及びその保護者

常盤野小中学校の教職員

②代表（スケジュールの管理や活動のお知らせ）

会計（利用する助成金やサークル費の管理、交通機関の用意）

連絡係（常盤野小中学校と連絡を取り合う）

お手紙係（行事終了後に送る感想文を送る）

③実施スケジュール

6 月 1 日 運動会のお手伝い

6 月中旬 運動会の感想文を郵送する

4 補助金による支援の効果

今まで交通費の関係からお手伝いに参加する人数を制限していたが、今回は人数を気にすることなく参加可能な学生が全員参加することができ、そのことでお手伝いの幅も広がった。今年は久しぶりに外での運動会であったためテントの設営や、重たい用具を体育館から外へ出し入れすることが必要であったが、大人数で参加できたためそのような人手が必要な場で役立ったと感じる。

学生が用具の片づけや写真撮影をしている間、教職員は児童の観察や指示、応援に時間を使うことができ、児童生徒は用具の片づけなどを気にせずに全力で自分の役割や同じ組の応援に集中することができていた。また、学生の人数が多かったことにより種目の参加もできたため、学生に対抗する保護者や教職員を応援する声が一段と大きく、お手伝いだけでなく同じ参加者として会場を盛り上げることができた。

このことから助成金によって大人数で参加することができたため、教職員と児童の接する時間を増やすことができ、児童生徒は行事に取り組む意欲が刺激されたと考えることができる。

5 反省点・改善点

学生のお手伝いにどれだけの効果があるのかを知るためにアンケートを行うと良いとアドバイスを受けたが、時期が中途半端なことや学校側の負担を考えたことにより実施することができなかった。例年学生側からアンケートをとったり声を聴いたりすることはなかったため、学校側がどのように感じているのかを聞く機会を今後つくっていききたい。

6 特記事項

ヒアリングのときに回答したように、運動会だけではなく他の行事のお手伝いや体育の相手としても常盤野小中学校へ行く機会がある。

7 事業実施時の写真



写真1 プログラム No.20『岩木山登山』にて用具を押さえている様子



写真2 プログラム No.7『チャンス走「赤白どっち?」』後の片づけの様子



写真3 運動会終了後テントを閉じるのを手伝っている様子

(3) 弘前大学ストリートダンスサークル A.C.T. (弘前大学・弘前学院大学)

<p>1 事業名称</p>
<p>定期公演『STEPvol.18』 駅前ねぶた運行 定期公演『STEPvol.19』</p>
<p>2 事業実施概要</p>
<p>「事業概要」</p> <p>6月15日 STEP vol.18 開催場所：弘前大学創立 50 周年記念会館 対象：ダンスに興味のある弘前市民や弘前大学に入学したいと思っている中高生 発表の機会を作ることで OB・OG だけでなく地域の方々との交流や A.C.T. 構成員自身の経験を増やせる。 SNS を使用してイベントの呼びかけや、活動報告を発信する。 当日のライブ配信に加えて、後日ジャンルやユニット毎に YouTube に動画をアップロードすることで、当日来られなかった方は勿論、遠方にいる方でも A.C.T. のダンスを見られるようにしている。</p> <p>8月5.6日 駅前ねぶた運行 開催場所：代官町みちのく銀行十字路出発～駅前～大町～上土手町弘善 SS+字路 イベント内容は駅前ねぶたと合同でのねぶた運行と、路上でのダンスパフォーマンス。 ねぶたを見に来た市内の方、県外の方が楽しめるようにパフォーマンスをした。</p> <p>12月22日 STEP vol.19 開催場所：弘前大学 50 周年記念会館 対象：ダンスに興味のある弘前市民や弘前大学に入学したいと思っている中高生</p> <p>本事業は若者の減少が著しい弘前市でダンスによる若者の活動の場を活性化すること、大学関係者やダンス関係者での認知度を上げ本団体の活動域を広げることの2つを目的としている。</p> <p>当団体は中高生に向けた活動の場が少ないこと、世代間の交流が少ないことを地域課題として捉えた。ACT の定期公演である STEP の公演や依頼されて出演するショーケースで、ダンスの楽しさを知ってもらい、ダンスを始めるきっかけ作りをしたい。また、中高生などに見てもらうことで、ダンスによる若者の活動の場の認知につなげた。</p> <p>そして共にダンスシーンを盛り上げ、弘前でダンスイベントを行いやすい環境を作る。さらに、ダンスを知らない人に向けたダンス披露によって、ストリートダンスの認知度を向上させ、弘前市内のサブカルチャー的な活動の活発化につなげたいと考える。</p> <p>ヒアリング審査の時点ではすでにダンスをしている人にフォーカスしていたが、ダンスをしていない人に焦点を当てようと検討した。その結果として、駅前ねぶた運行に参加し、ダンスを披露した。運行関係者などからも好評をいただいた。</p> <p>また、イベントの宣伝として、若年層に向けたものとして、SNS を通じて宣伝した。ダンス</p>

を知らない人向けのものとして、出演したイベントで口頭にて宣伝を行った。

ねふた運行やイベント出演によって、ダンスを知らない人にも見てもらうことができ、A.C.T.の存在を知ってもらうことにもつながった。結果として、定期公演『STEPvol.19』では約150人の方にご来場いただき、前回のvol.18の約80人と比べ、大幅に増加した。

活動を通じて、ダンスを使って市民に若者の活躍の場があることを発信できた。また、地域の方と交流することができ、A.C.T.のダンスをきっかけにダンスを知ってもらうことにつながった。結果として弘前市内のサブカルチャー的な活動の活発化に貢献できた。

3 事業実施報告

①事業報告・方法

STEPvol.18

6月15日

開催場所：弘前大学創立50周年記念会館

来客数は約80人。

イベント内容は9ジャンルと4ユニットの計13組のダンスステージ発表。

本イベントの対象はダンス関係者やダンスに興味を持っている方とした。

駅前ねふた運行

8月5.6日

開催場所：代官町みちのく銀行十字路出発～駅前～大町～上土手町弘善SS+字路

イベント内容は駅前ねふたと合同でのねふた運行と、路上でのダンスパフォーマンス。

ねふた囃子にあわせて踊るといふ、初の試みを行った。

ねふたを見に来た市内の方、県外の方が楽しめるようにパフォーマンスをした。

駅前ねふたのInstagramアカウントでは、2本の動画を掲載していただき、再生回数は合計約4,000回にも上り、135件の「いいね」をいただいている。現在来年度の運行に向けて検討を進めている。

STEPvol.19

12月21日

開催場所：弘前大学創立50周年記念会館

来客数は約150人。

イベント内容はSTEPvol.18と同様に各ジャンルとユニットのステージ発表。弘前市の若年層、ねふた運行でACTに興味を持っていただいた全ての年代を対象とした。

本イベントで実施したアンケートの詳細を掲載する。

【STEPvol.19】回答者：46人

〈このイベントをどのように知りましたか。(複数回答可)〉

- ・SNSの投稿を見た：39.6%(21)
- ・ACTメンバーから直接聞いた：52.8%(28)
- ・友達：7.5%(4)

〈イベントにはどれくらい満足されましたか。〉

(5段階評価のアンケートで5が最大、1が最小)

- ・5：76.1%(35)

- ・ 4 : 23.9%(11)
- ・ 3 : 0%
- ・ 2 : 0%
- ・ 1 : 0%

〈ダンスに興味を持ったり、本団体に興味を持っていただけましたか〉 全 27 件の回答
(5段階評価のアンケートで5が最大、1が最小)

- ・ 5 : 60.8%(28)
- ・ 4 : 30.5%(14)
- ・ 3 : 8.7%(4)
- ・ 2 : 0%
- ・ 1 : 0%

〈このイベントに関する項目について、どのくらい満足されましたか。〉
(5段階評価のアンケートで5が最大、1が最小)

開催場所

- ・ 5 : 54.3%(25)
- ・ 4 : 21.7%(10)
- ・ 3 : 21.7%(10)
- ・ 2 : 2.2%(1)
- ・ 1 : 0%

開催時期

- ・ 5 : 23.9%(11)
- ・ 4 : 60.9%(28)
- ・ 3 : 15.2%(7)
- ・ 2 : 0%
- ・ 1 : 0%

イベントの規模

- ・ 5 : 69.6%(32)
- ・ 4 : 26.1%(12)
- ・ 3 : 4.3%(2)
- ・ 2 : 0%
- ・ 1 : 0%

〈地域に根差した団体になるために、今後参加してほしいイベントや開催してほしいイベントはありますか。(複数回答可) 〉

- ・ 地域のお祭りのステージ : 28.1%(18)
- ・ 弘大祭以外の学祭 : 9.4%(6)
- ・ ダンス体験会やダンス教室 : 45.3%(29)
- ・ 一緒に踊るステージ企画 : 17.2%(11)
- ・ その他 : 0%

※0の中の数字は回答数

②実施スケジュール

- 6月15日 STEPvol.18
- 8月5.6日 駅前ねぶた運行
- 12月21日 STEPvol.19

4 補助金による支援の効果

一般的にダンスイベントには観覧料が必要となるが、今年度の全てのイベントを無料で実施できた。また、会場の使用やSTEPで用いる物の購入（照明案やチラシの印刷代、備品代 etc）ができたので、会場整備や本番の運行をスムーズかつ適切に行いやすくなった。それによって観客により良いものを見せることができ、公演の質を高めることができた。これがダンスの認知度を向上させ、弘前市内のサブカルチャー的な活動を活発化させるという目標に繋がったと考える。

5 反省点・改善点

ポスターの学内掲示を行っていなかった。
 ACTに関連のある人の来客が多いと感じたため、コンソーシアムやそれ以外の広報を活用してACTの存在を認知していない人等への宣伝を行うべきだった。
 観客が増えたことにより、会場のキャパシティが十分ではなかった。
 事業の規模感を大きくする為に、会場のキャパシティがより大きいものに変更するという改善策が挙げられる。
 ねぶた運行では、観客も一緒に踊れるような演出を取り入れると市民との交流が深まるのではないだろうかというコメントをいただき、来年に向けて検討中である。

6 特記事項

特になし。

7 事業実施時の写真

ジャンル	再生回数	投稿日時
STEP vol.18 [HIP HOP]	368	7か月前
STEP vol.18 [WAACK]	116	7か月前
STEP vol.18 [naughty]	91	7か月前
STEP vol.18 [HOUSE]	74	7か月前
STEP vol.18 [FREESTYLE]	222	7か月前
STEP vol.18 [POP]	414	7か月前
STEP vol.18 [GIRLS]	356	7か月前
STEP vol.18 [BREAK]	179	7か月前
STEP vol.18 [JAZZ]	120	7か月前
STEP vol.18 [ACT24]	440	7か月前
STEP vol.18 [Belinda]	78	7か月前
STEP vol.18 [Woot up]	65	7か月前
STEP vol.18 [LOCK]	158	7か月前

STEP vol.18 YouTube の再生回数



駅前ねぶた運行の様子

STEP vol.19		🔍	☰
	STEP vol.19 【GIRLS】 弘前大学ストリートダンスサ... 159 回視聴・3 週間前		STEP vol.19 【JIMO】 弘前大学ストリートダンスサ... 61 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【Belinda】 弘前大学ストリートダンスサ... 22 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【MistyNail】 弘前大学ストリートダンスサ... 55 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【ENDING】 弘前大学ストリートダンスサ... 123 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【BREAK】 弘前大学ストリートダンスサ... 62 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【HIP HOP】 弘前大学ストリートダンスサ... 176 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【29mo】 弘前大学ストリートダンスサ... 86 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【川柳】 弘前大学ストリートダンスサ... 61 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【POP】 弘前大学ストリートダンスサ... 155 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【HOUSE】 弘前大学ストリートダンスサ... 52 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【CITRUS】 弘前大学ストリートダンスサ... 74 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【Septique】 弘前大学ストリートダンスサ... 43 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【Cyclops713】 弘前大学ストリートダンスサ... 38 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【LOCK】 弘前大学ストリートダンスサ... 59 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【WAACK】 弘前大学ストリートダンスサ... 106 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【つくるクルー】 弘前大学ストリートダンスサ... 89 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【Merrily】 弘前大学ストリートダンスサ... 45 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【REGGAE】 弘前大学ストリートダンスサ... 41 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【ディキ・ディキ】 弘前大学ストリートダンスサ... 62 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【You gotta quintet】 弘前大学ストリートダンスサ... 123 回視聴・1 か月前		STEP vol.19 【FREESTYLE】 弘前大学ストリートダンスサ... 94 回視聴・1 か月前
	STEP vol.19 【JAZZ】 弘前大学ストリートダンスサ... 75 回視聴・1 か月前		

STEP vol.19 YouTube の再生回数

(4) **デザイナープロダクション (弘前大学)**

1	事業名称
	地域研究をテーマにしたヒーローショー
2	事業実施概要
	<p>①実施した事業の概要</p> <p>私たちデザイナープロダクションは弘前大学をモチーフとしたヒーロー「ヒロデザイナー」などのキャラクターを運営しているサークルです。</p> <p>青森県は短命県や雪害など多くの地域課題を抱えています。地域課題解決を目指し様々な研究が行われている弘前大学ですが、その研究は学生・市民に知られていないものも多くあります。その研究をPRするためにヒーローショーを企画しました。ヒーローショーはヒーローが使う必殺技に大学研究を、敵キャラクターに地域課題をモチーフとして作成します。これによって「大学研究によって地域課題が解決される」という出来事を可視化し、難しいと思われがちな大学研究をわかりやすいものとしてPRします。</p> <p>②どのような点を地域課題としてとらえて実施したか。</p> <p>青森県は短命県、豪雪、少子高齢化など多くの地域課題を抱えています。私たちが通う弘前大学では多種多様な研究が行われており、その中には地域課題解決に結びつくものもあります。しかしながら、その研究は学生および市民に知られていないものも多いです。多種多様な分野を様々な観点から研究し、時には地域社会に多大な貢献をもたらす大学研究が地域住民に知られていないことは学園都市である弘前市にとって大きな損失であると考えます。これを地域課題としてとらえてヒーローショーによって研究をわかりやすくPRする、という事業を実施しました。</p> <p>③どういった活動が地域活性化につながると考え実施したか</p> <p>このヒーローショーは短命県などの地域課題を敵キャラクター、大学研究をヒーローが使う必殺技として活用するという構成で進みます。このようなストーリーを通じて大学研究への親近感を高め、大学と地域住民の距離を縮めることで、学園都市である弘前市のさらなる活性化につながると考え、実施しました。</p> <p>④事業を成功させるために何を検討し実施したか</p> <p>敵キャラクターのテーマは弘前大学の学生数でブレインストーミングを行って決定し、スーツを作成しました。ヒアリングの際にご指摘いただいた脚本についてですが、ChatGPTを併用しながら原案を作成しました。さらに研究の取材に伺った石田先生に脚本を監修していただきました。</p> <p>⑤事業を実施したことにより、どのような成果が得られたか</p> <p>ショーは弘前大学で10月19日、20日に行われた弘前大学総合文化祭で行いました。</p> <p>また弘前大学総合文化祭だけでなく、もっと市民に開かれた場所でも行った方がいいという審査時のコメントを受けて、11月3日(日)に行われた弘前マルシェというイベントでも同様のショーを行いました。</p> <p>ショーを行った後のアンケートには「降雪の予測システムを弘大が研究しているなんて初めて知った」「弘前大学の研究についてもっと知りたくなった。」という回答がありました。今回実施したヒーローショーによって大学研究への関心を高めることができたと考えます。加えて「豪雪問題に弘前大学が立ち向かっているという構図が見えた」「何を表しているのかがわかりやすいかつこ良く大変楽しめました。」という回答もありました。本事業の目的である、難しいような研究をヒーローショーによってわかりやすく、楽しく伝えるということが達成できたと思います。</p>

3 事業実施報告

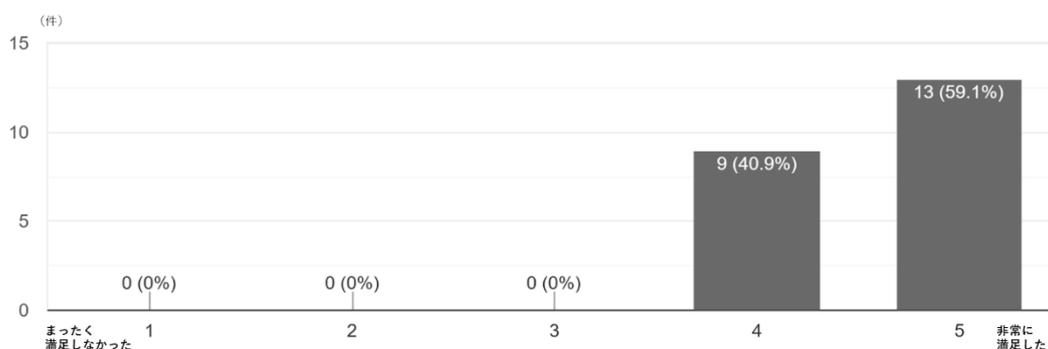
7月中旬ごろに地域課題のブレインストーミングを行い、その中から「豪雪」を敵キャラクターのテーマとすることにしました。研究の調査を行い、弘前大学理工学研究科石田祐宣先生に取材に行きました。また石田先生には敵キャラクターの設定やヒーローの必殺技、脚本などを監修いただきました。

2024弘前大学総合文化祭において10月20日（日）に開催された、Performance Stageにてショーを行いました。また、11月3日（日）に開催された弘前マルシェにて同様のショーを行いました。さらに10月21日（月）に行われた「中南地域雪の勉強会」にて弘前大学総合文化祭で行ったショーを取り上げていただきました。

弘前大学総合文化祭において実施したアンケートの結果を以下に示します。

ショーにはどのくらい満足されましたか。

22件の回答



これらに加えて、ダイザープロダクションのInstagramに、敵キャラクターの詳細やヒロダイザーが使用した研究（「雪おろシグナル」「ひろだい白神レーダー」）についての解説を投稿しました。

（ダイザープロダクションInstagram<https://www.instagram.com/hirodizer.pro/>）

③実施スケジュールを記入

- 7月 中旬 地域課題ブレインストーミング完了
- 9月 月上旬 研究調査完了、取材
- 9月 中旬 ヒーローショー準備、敵キャラクター作成
- 10月20日 学祭でのヒーローショー
- 11月 3日 弘前マルシェ

4 補助金による支援の効果

この事業はヒーローだけでなく、取り上げる地域課題をモチーフとした敵キャラクターを作成する必要がありました。しかしながらヒーローショーでヒーローが戦うキャラクター、怪人のスーツは作りが複雑であったり体積が大きかったりするために、多くの材料を必要とします。自主財源だけではまかなうことができず、制作物の質は低くなります。

今回のショーで補助金を使わせていただくことによって、よりクオリティの高い敵キャラクターを作成することができたと思います。

5 反省点・改善点

作成する敵キャラクターのテーマを弘前大学の学生でブレインストーミングを行って決定しました。このブレインストーミングの時点で、地域の皆様を巻き込むことができたなら、もっと関心をもってもらえたのではないかと考えています。

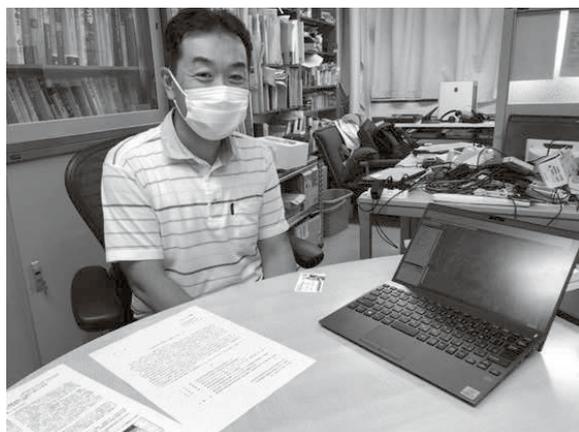
6 特記事項

特になし。

7 事業実施時の写真



地域課題ブレインストーミングの様子



理工学研究科石田先生に取材



ヒーローショー準備、敵キャラクター作成



弘前大学総合文化祭でのヒーローショー



アンケートを取っている様子



雪の勉強会の様子



弘前マルシェの様子

(5) 地域活性化サークル（弘前学院大学）

1	事業名称
大学キャンパスを使用した稔町町内会との合同イベントの開催	
2	事業実施概要
<p>① 実施した事業の概要</p> <p>学生と地域住民との関係性の構築を目指し、稔町町内会と協力して、町内の秋祭りという形で弘前学院大学文化祭の日と一緒に開催した。会場に大学キャンパスを使用した。大学生と稔町とはじめとした地域住民とのつながりを形成することができ、町内のイベントを行うことは地域の活性化にもつながると考えた。</p> <p>場合によって露店商業組合やキッチンカーの参加も検討したが、大学・露店商業組合・キッチンカーの方とそれぞれ打ち合わせを行った結果、今回は露店とキッチンカーは使用しなかった。町内の方も一緒に参加してブースで販売や子供たちとの交流を行った。</p> <p>② どのような点を地域課題としてとらえて実施したか</p> <p>周りの学生と話をする、県外も県内でも地域の飲食店や特産物を知らない学生やイベント等にほとんど参加したことが無い学生を見かけることが多かった。このような中で、大学周囲であっても他域住民との関係性は希薄化しているように感じており、大学生活を通して地域の方と触れ合うことの少なさを感じている。地方の大学として地域の方との触れ合いの場があることは重要と考えており、そのような場がなくなっていることが課題であると考えている。町内会との合同イベントを通して地域との交流の機会になることを目的としている。</p> <p>③ どういった活動が地域活性化につながると考え実施したか</p> <p>大学を使用することで、稔町町内会の住民は大学自体に触れあう機会も増え、秋祭りを通して学生と地域住民との関係性の構築につながる。また、イベントを通して少しでも学生も周囲の地域に目を向ける機会となり、地域に対する興味や良さを知る機会になること、また参加した子供たちが町内と大学のつながりを感じ、地方の大学にも興味を持っていただけることを期待している。</p> <p>④ 事業を成功させるために何を検討し実施したか</p> <p>昨年度も行っていたが、改めて大学との日程調整や露店商業組合・キッチンカー・町内会とそれぞれの打ち合わせを数回行った。行う内容や協力の程度、時期などで調整が難しかった。検討の結果、町内の煮卵屋をメインとしたカレー・クレープの販売（物販）と福田餅屋、町内の方と通じた野菜販売の協力を得られた。</p> <p>⑤ 事業を実施したことにより、どのような成果が得られたか</p> <p>アンケート結果でも、参加者、町内の方からは概ね満足という結果であった。今年度は町内会の方がブース協力にも来ていただき、学生と一緒にブースを盛り上げてくれたことで、実施する側でも町内と学生との触れ合う場になったと考えられる。また、輪投げとボールすくいの子供が楽しめる遊びも行った。活動の実施により、学生と町内会、一般の方とそれぞれが参加</p>	

し触れ合いの場になったことは一つの成果である。町内の方からは「また機会があれば参加したい」「大学にはどんどん町内などの地域と交流の場を設けてほしい」などの声もあった。また、参加者からは「学生と地域の方の交流があるのは良い。」「稔町にこのような商品があったのを初めて知った。また購入したい」などの声もあった。

これらから、各町内で子どもや人口が少なくなっている中でも一緒に活動を行うことで地域と学生、子供たちが触れ合う場の提供となる。さらに、町内の販売物や飲食物を紹介することで、狭い地域ではあるが今後販売の促進や様々な町内に目を向けるきっかけになったと考えられる。昨年度は学生が考えた企画に対して町内から協力を得ていたが、今年度は野菜の販売などで町内会の方が意見を出してくれた内容もあり、関係性も構築できてきている。

3 事業実施報告

①具体的な事業報告・方法

弘前学院大学のキャンパス内で10月13日に行った。単独の開催とはせずに弘前学院大学の文化祭と同時に行った。稔町町内会を含む地域の方々が学生とのつながりを形成することを目的とした。町内会とのブースにも多くの方が参加しており、約80名の方がブースに参加してくれた。

参加した子供と保護者にアンケートを行い、概ね満足の回答を得られた。回答の中でも「子供が夢中になって楽しんでいた。」「稔町内に来る機会はあまりなかったが、煮卵屋やカレーの自販機などがあることを初めて知った。」「学生と話をすることができて子供も楽しんでいた。」「学生だけでなく町内の方もいたのが新鮮だった」などの意見を頂いた。

また、協力を得られた町内会の方からは「お手伝いが少ししかできなかったが満足でした。」「学生との触れ合いの中でいろいろと出会いとかもできた。」「今後は近隣の町内会も参加してはどうか」、「看護のサークルに頑張ってもらっているが大学や他の学部などもっと広げられると良いと思った」などの意見を頂いた。

②構成員の具体的な人数や役割

当日のブースの担当者6名の学生と町内会の方1名が担当した。

物販に協力を頂いたのは、煮卵屋、カレー屋、クレープ屋、福田餅屋、麵棒たけや。

事業全体の統括、広報、経費管理はサークルの学生のうち約4名が先になって準備を行った。大学の事務を含む大学関係者との連絡調整、近隣の商店街・キッチンカー・露店との連絡や協力の可否の確認、町内会との連携、日程調整、ポスター作製を教員と協力しサークル学生が担当した。

③実施スケジュールを記入

5月下旬～ 大学キャンパスの使用の有無確認

6月～9月 町内会との打ち合わせ

9月 物品等の準備、ポスターやチラシの配布

10月 町内会とのイベントを開催（弘前学院大学の文化祭に参加する形で開催した）

12月 関係者へ実施後のアンケートの依頼・分析

4 補助金による支援の効果

ポスター等による宣伝、当日の準備等に使用させていただき、集客を含め活用できた。

実際に話されたこととして、「ポスターを見て文化祭や町内のブースなどがあることを知った。楽しそうだと感じてきました。」という声もあり、補助金によって町内とのイベントを地域に知らせることになり、市民の方が外に出るきっかけにもつながったと思う。

5 反省点・改善点

宣伝やポップの作成費用はコンソーシアムの費用を活用させていただいているが、輪投げ、ボールすくいなどの準備にも費用が発生しており、部費を使用した。予算について使用できる範囲に合わせて準備にかかる費用も再検討する必要がある。

一般の町内の方にも協力してもらうことができたがより協力しやすい体制が必要である。今回は副会長との打ち合わせがメインだったが、町内との関係性がもう少しできてくればもっと町内の方への協力を依頼できるかもしれない。

昨年度の反省点と同様に他の町内と合同で行うことも可能かもしれない。このことにより、広く参加してもらうことができる。

6 特記事項

文化祭との合同開催は集客という点や大学の許可を得やすいという点で良さを感じている。

稔町町内にお店自体が少ないのもあり、今後は検討を要する。

ブース内での売り上げは全て物販のものであり、各お店の売り上げとなります。

サークルの収入になったものはありません。

7 事業実施時の写真



参加された子供と保護者がボールすくいをしている様子



ブースの外観



サークルの学生とブースの様子

(6) 弘前医療福祉大学救急救命研究会（弘前医療福祉大学短期大学部）

<p>1 事業名称</p>
<p>防災救急教室 ～親子で楽しく防災・救急を学んで命のバトンを繋げよう～</p>
<p>2 事業実施概要</p> <p>日本は災害大国であり、いつどこで災害が起きるかわからない。比較的災害が少ないと言われている弘前市においても令和4年には観測史上最大の集中豪雨を記録し、河川の氾濫や土砂災害、農園での被害も発生した。このような状況において日頃から防災意識を高めていくことが重要である。しかし、学校や職場で実施されている防災訓練は年に数回程度であり、その中でも地震・火災などが発生した際の避難訓練が中心に行われている。このことから実際に災害が発生した際の対応や防災の知識を深く身につける機会が少ないことが課題であると考えます。本事業では、同じ時間に同じ空間で内容を共有することで知識の定着を図るため、親子参加型としている。昨年度は第1事業・第2事業に分けて実施したが、今年度は実施回数を増やし、第3事業まで行った。防災救急教室の内容は心肺蘇生法・防災クイズを基本とし、第1事業ではそれらに本学の設備を十分に活用して暗闇脱出ゲーム・ボルダリング・災害時の炊き出しといった内容を、第3事業ではご依頼を元に段ボールベッド、簡易トイレ、毛布担架の組み立てと取り扱い・災害時の炊き出しといった内容の他、防災クイズで緊急地震速報音の視聴をしたり、市販の防災食の紹介も追加し、半日を通して防災について学ぶことができる体験型のイベントを開催した唯一学外で実施した第2事業では、弘前市立石川小学校のPTAからご依頼をいただき、石川小学校に伺い、心肺蘇生法・防災クイズ・段ボールベッド、簡易トイレ、毛布担架の組み立てと取り扱いを親子で体験してもらうことができた。</p> <p>今回は、一昨年度からの課題である参加者の増加に力を入れ活動した。第1事業前にはボランティアとして参加した川先地区の納涼祭にて、参加者へチラシを配布して広報活動を実施した。また、複数の児童館を訪ねて、チラシを配布し、保護者への周知を図った。併せて、SNSを活用して告知を行った。これらの広報活動の結果、外部より直接依頼をいただくことができた。</p> <p>本学で実施した防災救急教室にてアンケート結果は次の通りである。「子どもも大人も楽しく学べてよかった」「忘れないうちに突然災害が起きた時に出来ることを子どもたちと話してみる」「見たことがあるというだけでなく、やってみたことがあるという経験が必要だと感じた」「限られた時間の進行の中で楽しみながら必要な知識が得られ、経験できた」「知っているつもり災害・救急について改めて知ることたくさんありとても楽しい時間だった」などの意見をいただいた。また、子どもたちにも実施後に簡単なアンケートを実施し「暗闇脱出ゲームが楽しかった」「心肺蘇生法がよくわかった」といった子供の視点からの具体的な感想もいただき、満足のいく結果となった。今年度の本事業は複数開催することで多くの人に体験していただくことができ、防災の重要性を再認識してもらえらる機会となった。</p>
<p>3 事業実施報告</p>
<p>① 事業報告</p> <p>【第1事業】 防災救急教室～親子で楽しく防災・救急を学んで命のバトンを繋げよう～</p> <p>日 時：令和6年9月7日（土） 11：00～14：00</p> <p>場 所：弘前医療福祉大学短期大学部 USAR 訓練棟</p> <p>内 容：心肺蘇生法、防災クイズ、ボルダリング、暗闇脱出ゲーム、災害時の炊き出し</p> <p>参加人数：親子5組 計11名（小学生6名）</p>

【第2事業】防災救急教室～親子で楽しく防災・救急を学んで命のバトンを繋げよう～

日時：令和6年10月12日（土） 9：00～12：00

場所：弘前市立石川小学校

内容：心肺蘇生法、防災クイズ、段ボールベッド、簡易トイレ、毛布担架

参加人数：親子19組 計43名（小学生25名）

【第3事業】防災救急教室～親子で楽しく防災・救急を学んで命のバトンを繋げよう～

日時：令和7年1月12日（日） 11：00～14：00

場所：弘前医療福祉大学短期大学部 USAR 訓練棟

内容：心肺蘇生法、防災クイズ、段ボールベッド、簡易トイレ、毛布担架、災害時の炊き出し

参加人数：親子5組 計10名（小学生8名、中学生2名）

② 実施スケジュールを記入

6月上旬	ヒアリング審査・第一事業準備
9月7日	第1事業実施
9月上旬～10月上旬	第2事業準備
10月12日	第2事業実施
10月中旬～1月上旬	第3事業準備
1月12日	第3事業実施
10月下旬～令和7年2月	成果発表準備

4 補助金による支援の効果

第1事業・第3事業では、日常生活ではあまり口にする事のない非常食のアルファ化米を購入し、実際に食べていただくことができた。参加記念品として防災グッズを配付し、事業当日から災害に対する備えを行うことができ、防災に対する意識付けもできた。また、前年度よりも多くの開催を実現することができ、依頼元の希望に沿った内容を行うことができた。

5 反省点・改善点

事業を複数回行うことで多くの方に参加してもらうことができた。昨年度の事業では終日を使って実施したため、保護者参加のハードルが高くなってしまい、時間が長く子どもたちの集中力が切れてしまうという反省点が残った。これらを改善させるために今年度は開催時間を大幅に短縮した。しかし、実施内容と時間のバランスが取れず、準備していた内容を網羅できないことがあった。次年度以降は事業毎に対象者に合わせた到達目標を設定し、限られた時間の中で充実した内容を提供できるよう再構築したい。

直接の依頼をいただくことが増えたことから、防災救急教室の需要は大きく、今後も引き続き実施していくべきであると考えている。前年度事業後に実施したアンケートの結果から、事業を複数回開催したり開催時間を短くしたりすることで参加しやすいイベントになることが分かったため、今年度の事業では内容を見直すことで課題の解決に至った。

次年度以降の活動では更にブラッシュアップすることで、より良い事業にしていきたい。

6 特記事項

私たちがこの活動を通して一番に重視したことは、「親子で楽しく知識を深めてもらう」ということである。昨年度から本団体で実施してきた学生地域活動支援事業では、対象を親子にすることで家族の間で知識を深めることができた。また、親子で参加することで安心感や活動しやすい環境につながると考える。当日は、職場や学校の訓練、家庭では体験できない内容に関して本学を十分に活用して体験してもらうことができた。また実施場所が本学でない場合でも本学の資器材をできる限り持ち出して親子で一緒に実際に体験してもらうことができた。親子間での話し合いを通して知識を深めている場面が見られたことから、今回の事業の目的でもある“親子で災害についての深い知識を定着させる”ということを達成できたと思う。参加者の子どもたち一人一人に防災グッズを配付し、家庭に持ち帰って災害の意識をさらに高めることもできた。実施後のアンケートで保護者の方から「見たことがあるというだけでなく、やってみたことがあるという経験が必要だと感じた」という感想をいただき、親子参加型を昨年度から引き継いで実施した甲斐があったと感じる。

企画を計画し、実施することの大変さや市民の意見を取り入れたり、需要を考えたり依頼内容に沿った事業内容を考えたりすることの難しさを感じることができたこの事業は、我々学生にとって貴重な社会経験の場となった。今年度は多くの依頼をいただき小学生に対する防災救急教室の需要がまだまだたくさんあることが分かり、今後の救急救命研究会活動に活かしていきたい。

7 事業実施時の写真



ボルダリング体験



暗闇脱出ゲーム



炊き出し提供



心肺蘇生法教育



段ボールベッド体験



防災クイズ



毛布担架体験

(7) waku waku club (弘前医療福祉大学)

<p>1 事業名称</p>
<p>小比内健康いきいきプロジェクト～つなげよう！健康リレー～</p>
<p>2 事業実施概要</p>
<p>小比内地区住民が、楽しみ、生きがいを見つけながら、健康への関心や健康づくりへの意欲を向上することを目的として、今年度は、小比内地区、高田地区、福村地区の住民を対象として(1)健康づくり活動(健康教室)を2回行った。</p> <p>(1)健康づくり活動(健康教室)</p> <p>小比内地区、高田地区、福村地区に住んでいる住民を対象とし、健康教室を2回(①9月26日、②11月23日)実施した。2回とも会場は小比内農業研修会館を使用した。参加名数は1回目10名、2回目12名で2回連続参加してくれる方が多く見受けられた。</p> <p>【健康教室1回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血圧測定を行い参加者の体調を把握した上で、前半と後半に分け、前半は住民同士の交流を目的としたゲームを3つ(紅葉の箸つかみ、網キャッチ、ボール落とし)準備し、それぞれブースを設け、参加者がすべてのブースを回るように誘導して実施した。ゲームでは、高齢者が声を出し、楽しみながらも健康の要素を取り入れ、より効果的に実施できるように学生が声かけをして実施した。3つのゲームブースでは、ポイント制にし、参加者が意欲的に実施できるように工夫した。また、後半は健康への意識向上の機会とし、食事に関する健康教室(低栄養予防のための食事の工夫について等)を実施した。 <p>【健康教室2回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血圧測定を行い参加者の体調を把握した上で、第一部として高血圧をテーマとした健康講話(高血圧の症状・原因、冬に向けたヒートショック予防について)を約20分実施した。第二部では、高血圧予防にもつながる、冬に自宅でできる簡単体操を歌いながら実施した。参加者全員が参加しやすいように歌詞を貼り参加者が知っている曲を選曲する等、工夫をして行った。 <p>今年度は昨年度までの改善点として挙げられていた、対象の拡大・事業の拡大を目指して活動した。計画当初の段階では、対象の拡大に向けて小比内町会会長を通して、近隣地区の高田地区や福村地区にも赴いて健康教室を実施予定だったが、既に高田地区、福村地区町内の年度内行事や年間スケジュールが決まっており、実施することにつながらなかった。しかし、別地区での次年度実施へ向けたきっかけづくりとなった。</p>
<p>3 事業実施報告</p>
<p>①具体的な事業報告・方法</p> <p>(1)健康づくり活動(健康教室)</p> <p>【健康教室1回目】</p> <p>場所：小比内農業研修会館</p> <p>日時：9月26日 10時～11時00分</p> <p>対象：小比内地区、高田地区、福村地区の住民の皆さん</p> <p>参加名数：10名(男性：7名、女性：3名)(年代：70歳代～80歳代)</p> <p><健康教室テーマ>：みんなで笑顔に～いきいき健康づくり～「低栄養予防について」</p> <p><内容>：血圧測定を行い参加者の体調を把握した上で、前半と後半に分け、前半は住民同士で交流しながら身体を動かすことができるゲームを3つ(紅葉の箸つかみ、網キャッチ、ボール落とし)準備し、それぞれブースを設け、参加者がすべてのブースを回るように誘導して実施した。①箸つかみでは、利き手首にリストウエイト(おもり)を装着してもらい箸で別の皿に</p>

移す動作をしてもらった。小さい紅葉のポイントを高くし、10秒間でより多くつかみ移動できるように声がけをした。網キャッチでは学生と2名1組になり、学生が投げ住民は網ですくう役割とした。網ですくう際は、足を大きく1歩前に出すように意識してもらった。投げるものは大きさを変え、高齢者が意識し集中できるように工夫した。③ボール落としでは、段ボールに3色の穴を空け、3色のボールを同じ色の穴に落とすよう考えながら体を動かせるように実施した。

血圧測定では、血圧についての説明や住民の普段の生活の中で血圧を意識して暮らしているか、通院や服薬の継続性、運動等、住民の話聞くことができ、住民の関心度を知ることにつながった。

ゲームでは、高齢者が楽しみながら健康的に実施できるように学生が声がけをして実施し、各ゲームブースでは、ポイント制にすることで参加者が意欲的に実施できるように工夫した。また、後半は健康への意識向上の機会とし、食事に関する健康教室（低栄養予防のための食事の工夫について等）を実施した。

<アンケート結果>

○参加者10名 アンケート回答者9名/10名（回収率90%）

地区：小比内地区9名、福村地区1名

1. 健康教室に参加した理由（複数回答）

⇒毎年参加しているから（4名）、友人から誘われた（3名）、健康に興味があったから（3名）、イベント告知用チラシを見た（2名）、テーマが楽しそうだから（2名）、町内会のLINEで知った（1名）、その他（1名：町会で誘われたから）

2. 第1部（前半のゲーム）について良かったと思うこと（複数回答）

⇒ゲームの内容が楽しかった（7名）、学生に会えて楽しかった（6名）自分の身体について知ることができた（5名）、地域の人と交流できた（3名）、ゲームを通じて身体を動かすことができた（3名）、その他（1名：若い人からパワーをもらう）

3. 後半の健康教室について良かったと思うこと（複数回答）

⇒低栄養にならないための方法が理解できた（7名：70.0%）、食事バランスゲームが分かりやすかった（6名：60.0%）、低栄養について理解できた（4名：40.0%）、1食の目安の量について理解できた（4名：40.0%）、その他（1名：わかりやすかった）

4. また来年も参加したいと思ったか

⇒ぜひ参加したい（7名：70.0%）、機会があったら参加したい（2名：20.0%）

5. 来年度の健康教室で知りたい内容

⇒老年になってどうしたら楽しく過ごせるか、認知症について、薬の飲み方、体操のような身体を動かす機会があればよかった。

【健康教室2回目】

場所：小比内農業研修会館

日時：11月23日 10時～11時00分

対象：小比内地区、高田地区、福村地区の住民の皆さん

参加名数：12名（男性：6名、女性：6名）（年代：70歳代～80歳代）

<健康教室のテーマ>：簡身体操で血圧を守ろう

<内容>高血圧やヒートショックの説明、家でできる簡身体操

<内容>：血圧測定を行い参加者の体調を把握した上で、第一部と第二部に分けて実施した。第一部では、高血圧をテーマに高血圧の症状・原因、ヒートショックについて（起こりやすい場面、予防方法等）健康講話を20分ほど実施した。休憩を挟み、第二部では、体操による血圧への効果の講話と冬に家でできる簡身体操（足踏み、ももあげ、かかとあげ、つま先上げ、ツイ

スト運動)を実施した。健康レベルを見ると、立位のままで実施した参加者は10名、座位で実施した参加者は2名であった。前方に模造紙(歌詞を記載)を貼り、色調で体操の順番がわかるように工夫すると同時に、参加者が歌いながらできるように曲のテンポも考え実施した。

<アンケート結果>

○参加者12名 アンケート回答者12名/12名(回収率100%)

- ①高血圧の原因とリスクについての理解⇒できた7名(58.3%)、少しできた5名(41.7%)
- ②高血圧の予防法についての理解⇒できた8名(66.7%)、少しできた4名(33.3%)
- ③体操の効果についての理解⇒できた11名(91.7%)、少しできた1名(8.3%)
- ④体操の方法についての理解⇒できた9名(75.0%)、少しできた3名(25.0%)
- ⑤体操の継続性⇒継続したいと思った8名(66.7%)、少し継続したいと思った4名(33.3%)

○健康教室の感想や改善点

- ・授業の一貫で取り組んでいる所が非常に良く、地元の人達との交流が大事だと思う。
- ・色々考えて分かりやすく伝えることも皆さんの努力に感心する。
- ・日頃から血圧が高いが気にしないようにしている。血圧を下げる体操も教えてもらったが、その場限りで終わりになっている。
- ・難聴のため、声が聴きづらかった。
- ・1日の食事のとり方についてまた機会があったらやってほしい。
- ・とても楽しくてやりがいがあり、続けたいと思う。
- ・(体操が)立っても座ってもできるのが良かった。
- ・無理なお願いだが、月3回できたらいいなあ。

②構成員の具体的な名数や役割

○4年生(13名) 7名、6名のグループに分けてAチーム、Bチームで活動。

○リーダー4名(事業統括者1名、事業統括補助者2名、経費管理担当者1名)

【役割】申請書、報告書の作成、ヒアリング審査への参加、教員やコンソ事務局とのやりとり、老名クラブ等との日程調整、打ち合わせ、年間スケジュールの作成、3年生・4年生への連絡・調整、成果発表会参加。

○健康教室係(9名)

【役割】健康教室の企画から運営すべて(指導案作成、パワーポイント作成、チラシ・ポスター作成、アンケート作成、当日の運営、実施後のアンケート集計、成果発表に向けたポスター作成等)

○健康教室Aチーム7名(リーダー2名、健康教室係5名)

【役割】11月23日の健康教室の企画から運営すべて

○健康教室Bチーム6名(リーダー2名、健康教室係4名)

【役割】9月26日の健康教室の企画から運営すべて

○3年生(3名)

今年度より保健師志望の確定時期が9月になったことから、次年度の活動と今後の組織を考え、リーダー(2名)を決めてもらった。また、今年度は、主に4年生実施の2回目の健康教室へ(11月)参加(3名)してもらい、住民と触れ合うこと、そして活動内容や方法を知ってもらう機会とした。

③実施スケジュール

- 7月上旬 町会長さんとの打ち合わせ(4年生リーダー)、
- 7月下旬 町会長さん・老名クラブ副会長さんとの打ち合わせ(4年生リーダー)、
- 8月下旬 健康教室1回目準備、健康教室告知ポスター配布(Bチーム)

<p>9月中旬～下旬 健康教室準備・練習、リハーサル 9月26日 健康教室1回目実施(4年生7名)(Bチーム) 9月下旬 学生振り返りアンケートの実施、参加者アンケートの集計 10月下旬 健康教室2回目準備、健康教室告知ポスター配布(Aチーム) 11月上旬～中旬 健康教室2回目準備・練習、リハーサル 11月23日 健康教室2回目実施(4年生7名、3年生3名) 11月下旬～1月 成果発表会に向けた準備、事業報告書の作成等</p>
<p>4 補助金による支援の効果</p> <p>補助金の支援を受けたことによって、今年度も継続して、学生が地区住民と接し交流する機会を作ることができた。</p> <p>実施にあたり、物品の準備は作成等によって工夫もしたが、購入した用品によって、参加者にとって、より本格的に、集中して真剣にゲームに臨むことにつながり、参加者の楽しみを引き出し、健康教室に参加することに繋がられた。</p> <p>また、低栄養予防での健康教室で、参加者が日常生活でたんぱく質を意識的に摂ることができるよう、たんぱく質がしっかり摂れるスープを実際に手に取って見て知ってもらうことができた。参加者にとって、たんぱく質が身近なものであること、スーパーで簡単に手に入れられるイメージ、手軽に参加者の生活に取り入れられるイメージに繋がられる工夫となった。</p> <p>2回目の健康教育では、筋トレグッズ(手首や足首に巻くおもり)を渡し、家に帰ってからも運動を継続できるよう繋げることができた。</p> <p>このように、補助金を受けたことで、健康づくり活動の内容が充実し、住民同士や学生と住民間でのコミュニケーションを増やすと共に、住民の方達が楽しみながらその場限りだけではない健康づくり活動について継続されていくことは、地区の活性化と、ゆっくりではあるが、弘前市全体の地域活性化につながったと考える。</p>
<p>5 反省点・改善点</p> <p>今年度で地区の拡大を考えていたが、他地区(高田地区、福村地区)町会長に伝えた際には、既に各町会の年間行事が決まっていた、自分達の活動を計画に組み込むことができなかった。しかし、小比内町会長から、他地区の町会長へ話がつながり、次年度は「寿大学」という場をいただき健康教室を実施することにつながられた。これは、これまでの私達の課題だった地区や対象の拡大へ、また1歩前進できたと考える。次年度の円滑な健康教室の実施に向けて、これまでのつながりを大切にしつつ、学生間や学生と地区会長間等で早めに相談し計画的に取り組んでいく必要があると考える。また、健康教室の周知も、各町会長方とのつながりを大切に、ポスターの配布方法や配布時期等をよく相談して早めに行動していきたい。そして、小比内地区では地域活動も活発なため、元々あるイベントごとや活動を大切に、自分達がその場に出向くようにしながら、住民と一緒に活動や対象を拡大していきたいと考える。</p> <p>また、学生メンバーは、保健師志望の確定時期の変更に伴い、今年度は基本的に4年生のみでwaku waku clubの活動を実施することが多かった。4年生だけの少人数での取り組み方を考えていくと共に、3年生との取り組み方についても工夫を図っていきたいと考える。</p>
<p>6 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続する上で、4年生から3年生への引継ぎを強化する必要があると考えたため、引継書と4年間の振り返りと今後の計画案を準備し、活動の引継の機会を設ける。 ・健康教室は、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎等の対策を考え、マスク着用と消毒を実施し、感染予防対策を行った。

7 事業実施時の写真



リハーサルの様子①（1回目）



健康教室の様子①（9月）



健康教室の様子②



健康教室の様子③



健康教室の様子④



健康教室の様子⑤



健康教室の様子⑥



健康教室の様子⑦



集合写真



リハーサルの様子① (11月)



リハーサルの様子② (11月)



健康教室の様子① (11月)



健康教室の様子② (11月)



健康教室の様子③ (11月)



集合写真

3. 成果発表会

事業の終了報告として、各学生団体が実施した事業の成果等を広く知ってもらうため、成果発表会を開催した。また、当日の発表会運営を本コンソーシアムの学生委員会「いしてまい」が行った。

(1) 概要

日 時：令和7年2月23日（日）

13時00分～15時20分

場 所：土手町コミュニティパーク 多目的ホール

対 象：市民、学生、大学・行政関係者等

（入場無料、申込不要）

来場者：約30名

視聴者：約130名（アップルストリームLIVE配信）

主 催：大学コンソーシアム学都ひろさき

共 催：弘前市



(2) 発表会の様子

【成果発表の様子】



(審査員による) 講評

- 地域課題が何だったのか、これからもっともっと探って私達市民や大学にアピールして欲しい。
- 来年は学生の交流の場としてたくさんのサークルや団体が増えることを期待している。
- 反省点の分析がしっかり出来ているので、次年度に活かして欲しい。

4. 事業成果

今年度は採択された7団体がそれぞれイベント実施や調査活動等、各団体の特徴を活かした学生ならではのオリジナリティ溢れる活動を弘前市内各所で行った。これにより、学生と地域の人との交流が新たに生まれ、活動を通して、自分達が生活する弘前市の新たな魅力や団体の今後の目標や課題の発見に繋がったと考える。

5. 次年度以降の実施に向けた改善点

- ・一般市民の参加が少なかった為、事業の周知について改めて検討したい。
- ・質疑応答が少なく、学生同士の交流があまり行われなかった。ポスター周辺に椅子等を配置し休憩時間に交流が生まれやすくするなど工夫が必要。また、アンケートの回答項目についても精査が必要。

【参考】同事業の要項

(1) 応募できる団体

学生で構成される団体（ゼミ、研究室、課外活動団体等）で、次の要件の全てに該当するもの。なお、既存の団体のほか、新たに組織する団体も対象とする。

- ・学生の活動を教員が実質的に指導していること。（名義のみの顧問は不可とする。）
- ・構成員が概ね5人以上であること。
- ・コンソーシアム構成大学の学生で組織された団体であること。
- ・事業完了後に開催される、成果発表会に必ず出席できること。

(2) 対象事業

弘前市の地域活性化や地域課題の解決を目的に実施する事業で、次に掲げる要件の全てを満たしているもの。

- ・弘前市内で実施される事業であること。
- ・弘前市民を対象にした事業であること。
- ・令和7年1月31日までに全経費の支払いと完了報告書の提出が完了する事業であること。

(3) 補助金額と補助対象経費

① 補助金額

- ・単一の団体が事業を行う場合：上限100,000円
- ・異なる大学の団体が連携して事業を行う場合：上限200,000円

② 補助対象経費

事業を実施するために直接必要な経費とする。

（講師等謝礼、旅費、消耗品費、原材料費、燃料費、印刷製本費、通信運搬費、保険料、会場等使用料、賃借料及びその他本コンソーシアム会長が適当と認めたもの）

(4) 事業審査及び審査基準

応募書類及び申請団体へのヒアリング等を実施し、次の10項目について審査し、決定する。

- | | | | | |
|------|------|--------|------|------|
| ○適確性 | ○効果性 | ○適切性 | ○自主性 | ○実現性 |
| ○公益性 | ○地域性 | ○費用妥当性 | ○将来性 | ○独創性 |

令和6年度活動報告

Ⅱ. 連携推進事業

5 大学合同シンポジウム

1. 趣旨

来場者が興味を持ちやすいテーマを設定し、市民向けの公開シンポジウムを開催することにより、コンソーシアム及び構成大学の取組をより多くの人に知っていただけるようPR活動をする。

2. 概要

○テーマ

「大学コンソーシアム学都ひろさき 5 大学合同シンポジウム ～今後の地震防災～」

○内容

「今後の地震防災」というテーマのもと、基調講演として弘前大学大学院地域共創科学研究科長の片岡俊一氏から巨大地震のメカニズム、揺れの強さの予測結果、青森県の被害想定について講演。また、弘前大学の橋本恭男 社会連携担当理事・副学長と東日本大震災での被災体験を地域に伝える活動をしている弘前大学教育学部 3 年の千葉菜々子氏を交え、被害軽減のために我々がどのようなことができるのかパネルディスカッションを行った。

○日時

令和 6 年 12 月 22 日 (日)
13 時 30 分～15 時 30 分

○聴講方法

- ・公開視聴会場 (土手町コミュニティパーク)
- ・オンライン配信 (アップルストリーム)

<http://applestream.jp/>

○基調講演講師

片岡 俊一 氏 (弘前大学大学院地域共創科学研究科長)

○パネルディスカッション

モデレーター : 弘前大学大学院地域共創科学研究科長
パネリスト : 弘前大学社会連携担当理事・副学長
弘前大学教育学部 3 年



片岡 俊一
橋本 恭男
千葉 菜々子

○聴講者

公開視聴会場 : 35 名
オンライン配信 (LIVE) : 103 名
アーカイブ配信再生回数 : 166 回

○共催
弘前市

3. シンポジウムの様子

【司会】後藤 真吾

(弘前大学社会連携部社会連携課長・大学コンソーシアム学都ひろさき企画運営委員)

基調講演

「今後の地震防災」

講師：片岡 俊一 氏（弘前大学大学院地域共創科学研究科長）

本シンポジウムの第1部では、弘前大学大学院地域共創科学研究科長 片岡 俊一氏を講師に迎え、南海トラフ地震を例に地震の発生メカニズムを説明した。また、青森県の地震被害想定、被害軽減のためには事前対策が最も重要とし、「知識」「体の動かし方」「やる気」を身に付けてほしいと述べた。第2部では、モデレーターの片岡 俊一氏をはじめ、パネリストとして弘前大学社会連携担当理事・副学長 橋本 恭男氏と弘前大学教育学部3年の千葉 菜々子氏を交えパネルディスカッションを行った。橋本氏は自治体での勤務経験から行政目線での災害対策・対応を紹介し、岩手県釜石市出身の千葉氏は東日本大震災での経験をもとに住民が事前に何をし、災害発生時にはどのような行動をすべきか述べた。

なお、当日は公開視聴及びライブ配信で138名が聴講した。



片岡 俊一 氏



講演の様子



パネルディスカッションの様子

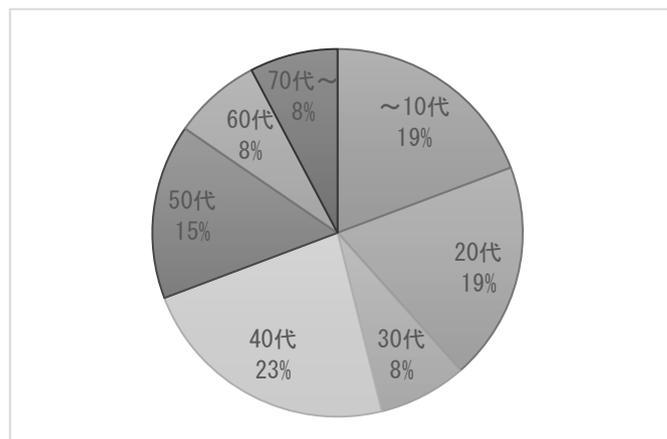
4. アンケート

○来場者数 : 35名 ○当日視聴者数 : 103名
 ○アンケート回答者数 : 26名

○回答者内訳

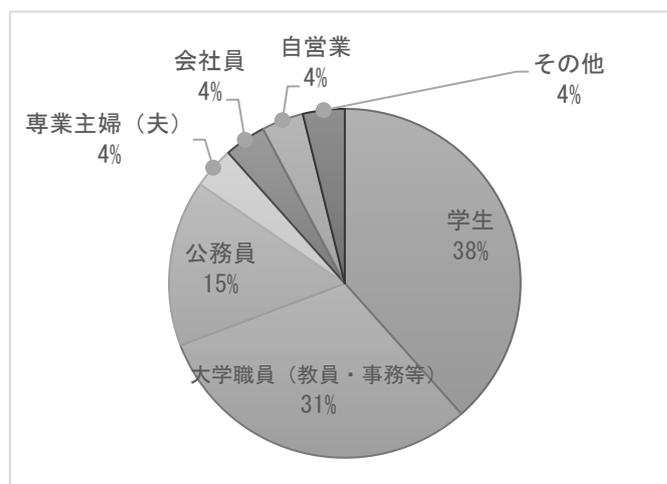
【年代別】

	回答数 (%)
～10代	5 (19%)
20代	5 (19%)
30代	2 (8%)
40代	6 (23%)
50代	4 (15%)
60代	2 (8%)
70代～	2 (8%)
計	26 (100%)



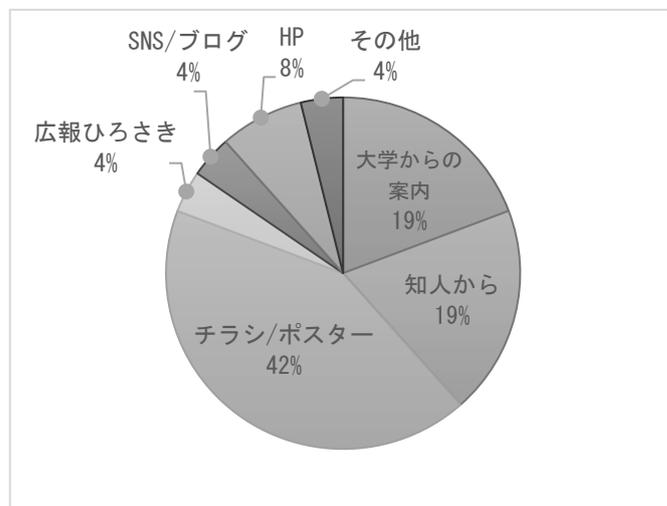
【職業別】

	回答数 (%)
大学職員(教員、事務等)	8 (31%)
学生	10 (38%)
公務員	4 (15%)
専業主婦(夫)	1 (4%)
会社員	1 (4%)
自営業	1 (4%)
その他	1 (4%)
計	26 (100%)



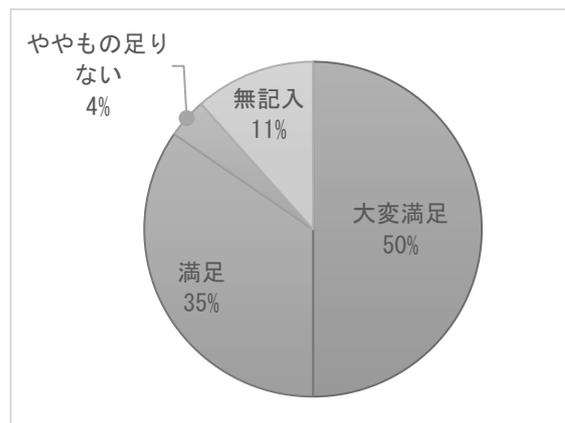
○今回のシンポジウムを何で知ったか

	回答数 (%)
①大学からの案内	5 (19%)
②知人から	5 (19%)
③チラシ/ポスター	11 (42%)
④広報ひろさき	1 (4%)
⑤SNS/ブログ	1 (4%)
⑥HP	2 (8%)
⑦その他	1 (4%)
計	26 (100%)



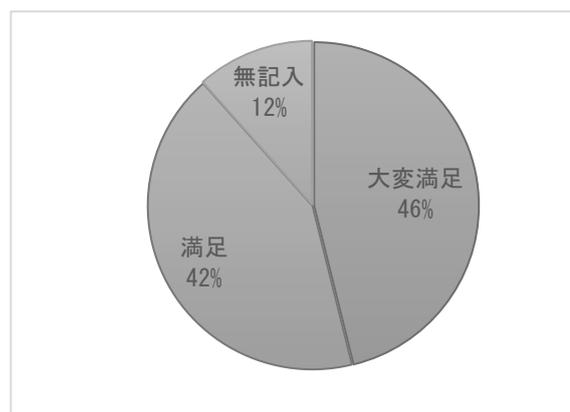
○基調講演について

大変満足	13 (50%)
満足	9 (35%)
どちらともいえない	0 (0%)
ややもの足りない	1 (4%)
もの足りない	0 (0%)
無記入	3 (12%)
計	26 (100%)



○パネルディスカッションについて

大変満足	12 (46%)
満足	11 (42%)
どちらともいえない	0 (0%)
ややもの足りない	0 (0%)
もの足りない	0 (0%)
無記入	3 (12%)
計	26 (100%)



○感想等

【シンポジウム感想等】

- ・このテーマは、近年多くの方が共通して関心を寄せていることだと感じます。最新の科学的知識をわかりやすく解説していただき、その上で自分達のできることを考え、またそれを共有することができる貴重な機会となりました。
- ・現在の資料や過去の被害、質問についても、丁寧に読み解き、分析してくださっていたので、知識の穴が埋まる有意義な講演でした。ありがとうございました。
- ・基調講演では、南海トラフや青森県のことについて、新たに知る内容があった。青森のことをきいてより身近に感じた。
- ・いつ、どこで災害の被害が大きくなるのか、巨大地震はどのくらいの確率で起きるかなどとてもためになる話を聞くことができたと良かったです。

5. 事業成果

会場を訪れた参加者からは、「行政の視点と住民の視点から話を聞いたことは大変貴重だと感じた。年末年始、家族と防災について話し合ってみたく感じたことができた」、「パネルディスカッションで同じ大学生の意見・考え方を聞くことができ大変よい機会であった。」などの声が聞かれ、有意義なシンポジウムとなった。

各大学公開講座等助成事業

1. 各大学公開講座等助成事業とは

本コンソーシアムを構成する弘前市内5大学が行う公開講座等事業（以下「事業」）の実施を補助することにより、各大学の特色を活かしながら蓄積する知を広く市民に向けて発信・還元することで、高等教育機関が集結する「学都ひろさき」を強く印象づけるとともに、市民が本コンソーシアム及び大学を身近な存在であると感じ、市民による大学の活用を促すことを目的とする。

2. 補助を行った事業

(1) 放送大学青森学習センター

事業名称	放送大学青森学習センター公開講演会 「青森県の伝統工芸品～全国の工芸品と比較して～」
主催	放送大学青森学習センター
内容	<p>令和6年10月17日現在、全国の産業工芸指定品目は243品目あり、伝統工芸品は美術的な視点から文部科学省、産業的な視点から経済産業省が主管しています。</p> <p>今回は、日本の伝統的工芸品と青森県の工芸品とを比較し、県指定の主要な工芸品の現状を延べます。</p> <p>そこから、伝統工芸品と伝統的工芸品、民芸品などの違いや、県内各地域の工芸品の紹介を行います。</p>
日時	<p>①令和6年10月26日（土）13:30～15:00</p> <p>②令和6年11月2日（土）13:30～15:00</p>
会場	<p>①八戸会場（ユートリー4階 研修室）</p> <p>②弘前会場（青森学習センター講義室）</p>
実施状況等	<p>参加者数</p> <p>①八戸会場：29名</p> <p>②弘前会場：24名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>八戸会場の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>弘前会場の様子</p> </div> </div>



チラシ

(2) 弘前医療福祉大学短期大学部

<p>事業名称</p>	<p>弘前医療福祉大学短期大学部「青森県産食材を使った卒業料理作品展」</p>
<p>主催</p>	<p>弘前医療福祉大学短期大学部 別科 調理師養成1年課程</p>
<p>内容</p>	<p>学習成果発表の場として、青森県産食材を使用した日本・西洋・中国料理のコースメニューを考案・製作して展示・公開し、調理実習担当講師による表彰のほかに、一般来場者による投票を実施した。</p> <p>また、津軽を代表する郷土料理として昔から親しまれてきた「粥の汁(けのしる)」を、若い世代の視点から工夫した「ごま豆乳もちもち粥の汁」として試食を提供した。</p> <p>さらに、県産食材を使用した料理を紹介することにより、県産食材の消費拡大につながることを願うとともに「食」にかかわる様々な話題や情報を発信した。</p> <div data-bbox="1050 501 1358 931" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">事業チラシ</p>
<p>日時</p>	<p>令和7年2月22日(土) 11時30分～15時00分</p>
<p>会場</p>	<p>土手町コミュニケーションプラザ1階 多目的ホール</p>
<p>実施状況等</p>	<p>○参加者数：102名</p> <div data-bbox="443 1312 900 1617" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="922 1312 1378 1617" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="443 1639 900 1944" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="922 1639 1378 1944" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">事業の様子</p>

(3) 柴田学園大学短期大学部

<p>事業名称</p>	<p>特別公開講座 「～作って食べる日本のアート～練り切り作り」</p>
<p>主催</p>	<p>柴田学園大学短期大学部 地域文化センター</p>
<p>内容</p>	<p>和菓子は日本の歴史や季節感から生まれた伝統文化であるとともに、それぞれの地域に根差した食文化を表すものである。中でも、「練り切り」は四季折々の植物や風物を象った芸術的な和菓子で、最近では和に限らず、ハロウィンやクリスマスモチーフにしたデザインも親しまれ喜ばれている。今回、定期的に和菓子教室を開催している講師の指導を仰ぎながら、日本の食文化を代表する和菓子の1種である「練り切り」の制作を広く一般市民に向けて開講した。</p> <p>参加者は親子や友人など世代を超えて集まり、専門の器具で職人の技法にも挑戦した。1テーブルにつき4組程度を配置し、講師の指導を仰ぎながら、「雪ひとかけら」「冬の花」「サンタクロース」「クリスマスツリー」の練り切りを各自4種類作製した。</p> <div data-bbox="1050 477 1358 904" data-label="Image"> <p>令和6年度大学コンソーシアム学研ひろさき活性化支援事業 柴田学園大学短期大学部 特別公開講座 ～作って食べる日本のアート～ 練り切り作り</p> <p>日時 11月30日(土)10:00~11:30 会場 柴田学園大学短期大学部(弘前市上長町25) 受講料 500円 定員 小学生以上(小学生は保護者同伴)20名</p> <p>申込方法 ①予約 申し込み ②参加費 500円 ③お菓子作り体験券 ④お菓子作り体験券 ⑤お菓子作り体験券</p> <p>講師 高谷 優子 和菓子職人、講師、和菓子作り体験券 和菓子作り体験券、和菓子作り体験券、和菓子作り体験券</p> <p>問い合わせ 柴田学園大学短期大学部 地域文化センター 〒036-8502 弘前市上長町25 TEL 0192-334-5 FAX 0192-334-93</p> </div> <p>事業チラシ</p>
<p>日時</p>	<p>令和6年11月30日(土) 10:00~11:30</p>
<p>会場</p>	<p>柴田学園大学短期大学部 平成館1階 第1調理実習室</p>
<p>実施状況等</p>	<p>○参加者数：31名</p> <div data-bbox="480 1525 1362 1738" data-label="Image"> </div> <p>事業の様子</p>

(4) 柴田学園大学

<p>事業名称</p>	<p>特別公開講座 「絵本のごちそうクッキングー親子時間を楽しもうー」</p>
<p>主催</p>	<p>柴田学園大学 地域資源活用研究センター</p>
<p>内容</p>	<p>子どもの想像力や自立心を高めるため、絵本の世界を楽しみながら「よんでつくってたべたのしむ」をねらいとした①「プリンちゃん」「ルルとララのカスタードプリン」②「おかしのずかん」などの読み聞かせを行った後に、実際にその絵本に出てきたおやつを親子で調理する。</p> <div data-bbox="1054 461 1361 891" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">事業チラシ</p>
<p>日時</p>	<p>令和6年8月3日(土) 10:00~12:00 令和6年12月7日(土) 10:00~12:00</p>
<p>会場</p>	<p>柴田学園大学 調理学実習室・学生ホール</p>
<p>実施状況等</p>	<p>○参加者数 ①8月3日(土): 29名 ②12月7日(土): 30名</p> <div data-bbox="472 1317 759 1536" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="780 1317 1067 1536" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1075 1317 1362 1536" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">8月3日の様子</p> <div data-bbox="472 1608 759 1827" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="780 1608 1067 1827" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">12月7日の様子</p>

3. 補助事業実施による成果

本コンソーシアム構成機関が、各大学の特色を活かしたテーマを設定し公開講座を開催し、各大学が持つ知的シーズを提供した。これにより、高等教育機関が有する学術機能を地域社会に還元し、弘前市における教育・文化等の向上に寄与し、地域振興に貢献した。加えて、市民に「学都ひろさき」を印象づけ、市民による大学の活用を促すことが出来た。

【参考】同事業の要項

(1) 補助対象事業

次に掲げる条件のいずれかを満たす事業を補助対象事業とする。なお、学園祭で市民向けの公開講座として開催する事業は、補助対象外とする。

- ① 広く一般市民を対象とするもの
- ② より市民の目に触れ、より市民が参加しやすい形態で行われるもの（街なかの施設等、大学外の会場で行うなど）

(2) 補助金の交付額と補助対象経費

- ① 補助金の額は、原則、1大学あたり上限50,000円とする。
- ② 補助対象経費は、事業を実施するために必要な以下の経費とする。
 - ・会場借上費
 - ・チラシ・ポスター等印刷費（制作費）
 - ・チラシ・ポスター等発送費
 - ・事業実施に係る消耗品費
 - ・外部講師謝金
 - ・各号に掲げるもののほか、本コンソーシアム会長が必要と認めたもの

令和6年度活動報告

Ⅲ. 学生交流事業

学生団体シンポジウム

～5大学と学生1万人が弘前をつくる～

1. 趣旨

近年、地域に関心を持ち、地域活性化や地域貢献、PBL（Problem Based Learning：問題解決型学習法）として、ゼミや研究室、課外活動で、地域に出て活動をする学生が増え、それぞれに一定の成果をあげている。

しかし、団体同士の繋がりは薄く、連携がとれないことや特定の地域のみでの活動、学生の地域に根ざした活動を知らない市民が多いことが課題である。

そこで、学生の活動を広く公開することで、学生が弘前市を盛り上げている現状を多くの市民が知ることのほか、大学の枠を越えた学生同士の交流の場をつくり、団体同士の繋がりが強化、さらなる活発な活動を目指す。

2. 概要

学生団体シンポジウム

～5大学と学生1万人が弘前をつくる～

○日時

令和7年2月23日（日）13時00分～15時20分

○会場及び配信方法

会場：土手町コミュニティパーク 多目的ホール

配信：アップルストリーム配信

URL <https://applestream.jp/16380/>

○プログラム

- 13時00分：開会（挨拶等）
- 13時05分：学生地域活動支援事業 成果発表会
- 14時15分：休憩
- 14時25分：学生団体活動発表
- 14時35分：講評（コンソーシアム企画運営委員）
- 15時20分：閉会

○共催

弘前市

○来場者数

約30名（学生、市民、大学及び行政関係者等）

○LIVE 配信視聴者数

約130名



3. 参加学生団体

<p>1 弘大囃子組 (弘前大学)</p> <p>弘大囃子組は弘前ねぶたを中心に、青森県内の祭り囃子を演奏するサークルです。弘前ねぶたまつりに出陣するほか、老人ホームや市内のイベントの出演、小学校での囃子講習会など、年中活発に活動しております！ @@ @hiro dai884_gumi X @h_u_hayashigumi</p> 	<p>成果発表！</p>	<p>2 僻地教育研究会 (弘前大学)</p> <p>学校のイベントのお手伝いをするサークルです。近年は常盤野小中学校の運動会や文化祭等のお手伝いをしたり、子どもたちと一緒にダンスや劇に参加したりしています。 @@ @hekiken_clover X @HekikenClover17</p> 	<p>成果発表！</p>
<p>3 ストリートダンスサークル A.C.T (弘前大学)</p> <p>当サークルは、10個のジャンルがあり、初心者から経験者までがダンスを楽しんでいます。各地の様々なイベントに参加したり、ACT独自の定期公演などのイベントを開催したりするなど幅広く活動しています。 @@ @act_hirosaki</p> 	<p>成果発表！</p>	<p>4 ダイザープロダクション (弘前大学)</p> <p>ダイザープロダクションは弘前大学の公認サークルです。弘前大学をモチーフとしたヒーローの「ヒロダイザー」等を制作・運営しています。新メンバー募集中です！ @@ @hirodizer.pro X hiro.dizer.pro@gmail.com</p> 	<p>成果発表！</p>
<p>5 地域活性化サークル (弘前学院大学)</p> <p>コロナ禍に発足したサークルです。地域との繋がりを大事にして、学生目線で飲食店やイベントの紹介を行っています。また、学校に露店やキッチンカーを呼ぶなど、学生と地域との懸け橋になるように活動しています。 @@ @tiikasseika_hirogaku</p> 	<p>成果発表！</p>	<p>6 弘前医療福祉大学救急救命研究会 (弘前医療福祉大学短期大学部)</p> <p>私たちは、普段学んでいる講義や演習を通して応急手当普及啓発活動や、ボランティア活動を行っています。自らの知識・技術の向上を目指して地域の課題解決へ向け取り組んでいます。 @@ @hirosakiyou_qq</p> 	<p>成果発表！</p>
<p>7 waku waku club (弘前医療福祉大学)</p> <p>保健師課程の3・4年が地域住民と楽しく交流する場をつくることを目指している団体です。今年是小比内、福村地区の住民を対象に冬に家で出来る体操や身体を動かすゲーム、低栄養予防の健康教室を実施しました。</p>	<p>成果発表！</p>		
<p>8 学生委員会いしてまい (大学コンソーシアム学都ひろさき)</p> <p>「いしてまい」とは、弘前の大学生が伝統文化や飲食店を紹介することで地域の活性化を図るボランティアサークルです！弘前のよさをもっと多くの人に知ってもらおうと、大学生目線で発信しています！ @@ @isitemai_hirosaki</p> 	<p>活動発表！</p>		

会場の様子



学生団体シンポジウム



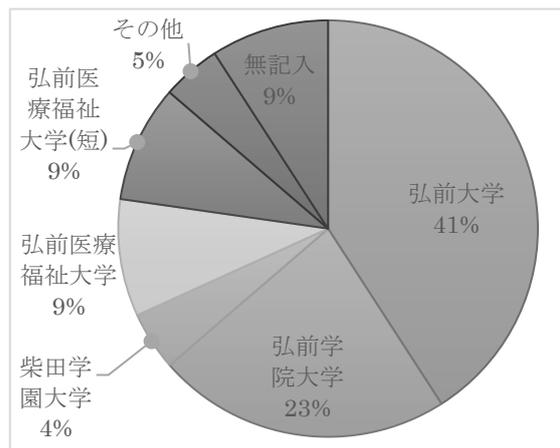
4. アンケート

○対象者 : 参加学生等	○回答者数/参加者数 : 22名/34名
○回答率 : 64.7%	

○回答者内訳

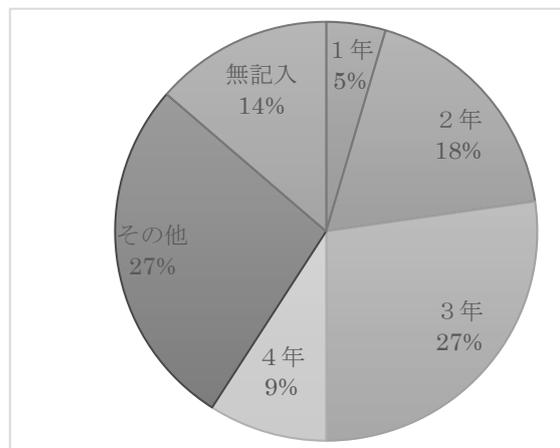
【所属別】

所属等	回答数 (%)
A. 弘前大学	9 (41%)
B. 弘前学院大学	5 (23%)
C. 柴田学園大学	1 (5%)
D. 弘前医療福祉大学	2 (9%)
E. 弘前医療福祉大学(短)	2 (9%)
F. 放送大学	0 (0%)
G. その他	1 (5%)
H. 無記入	2 (9%)
計	22 (100%)



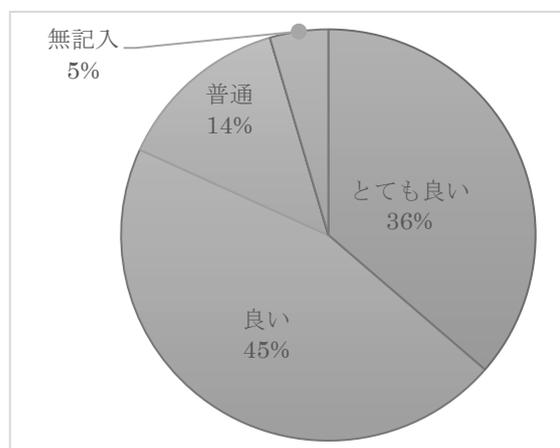
【学年別】

学年	回答数 (%)
① 1年	1 (5%)
② 2年	4 (18%)
③ 3年	6 (27%)
④ 4年	2 (9%)
⑤ その他	6 (27%)
⑥ 無記入	3 (14%)
計	22 (100%)



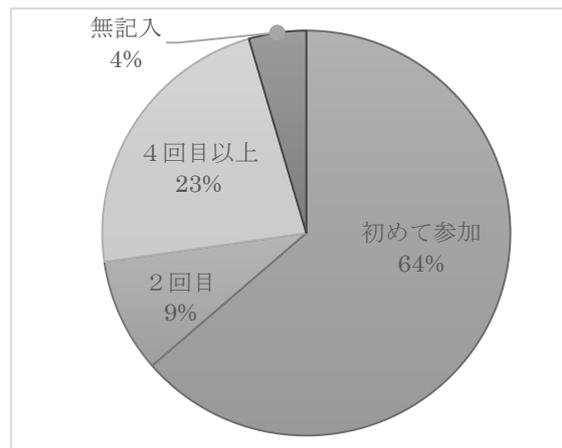
○「学生団体シンポジウム」の内容について

	回答数 (%)
A. とても良い	8 (36%)
B. 良い	10 (45%)
C. 普通	3 (14%)
D. 悪い	0 (0%)
E. とても悪い	0 (0%)
F. 無記入	1 (5%)
計	22 (100%)

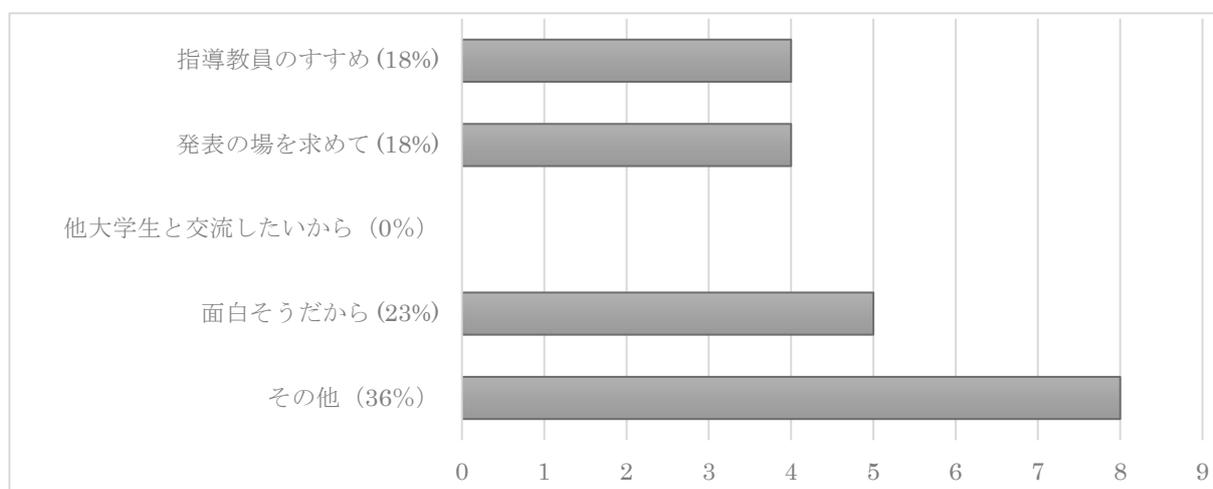


○「学生団体シンポジウム」への参加について
 (1) 類似イベント等への参加経験

	回答数 (%)
A. 初めて参加	14 (64%)
B. 2回目	2 (9%)
C. 3回目	0 (0%)
D. 4回目以上	5 (36%)
E. 無記入	1 (14%)
計	22 (100%)



(2) 「学生団体シンポジウム」に参加した理由 (複数回答可)

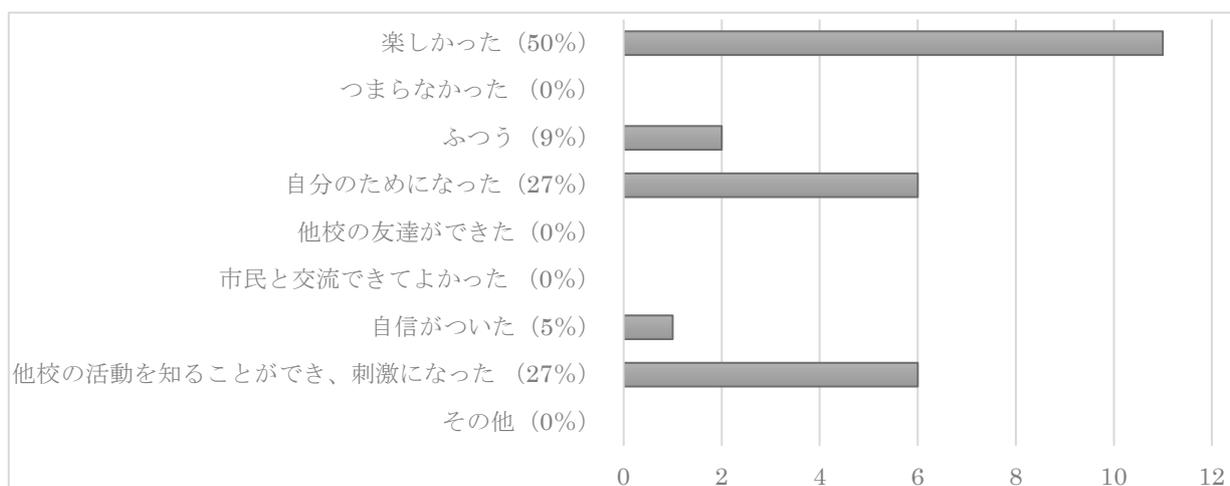


※【その他】の理由 (一部抜粋)

- ・先輩に勧められて。
- ・頼まれたから。

(人)

(3) 「学生団体シンポジウム」に参加した感想 (複数回答可)



(人)

(4) 来年も「学生団体シンポジウム」に参加したいか

	回答数 (%)
A. 是非参加したい	11 (50%)
B. 指導教員にすすめられれば参加すると思う	1 (5%)
C. 卒業予定なので参加出来ない	3 (14%)
D. できれば参加したくない	1 (5%)
E. 後輩にすすめる	3 (14%)
F. 無記入	3 (14%)
計	22 (100%)

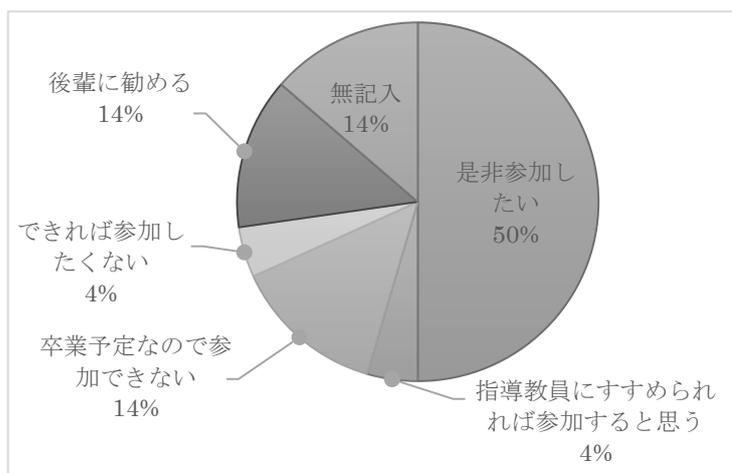
※回答の理由 (一部抜粋)

A. 是非参加したい

- ・活動について知って欲しい為。
- ・学生の地域貢献について知ることができる。
- ・活動の意義について改めて考える機会になる。

D. できれば参加したくない

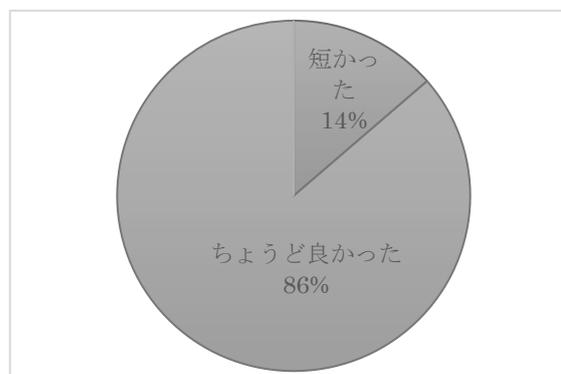
- ・他団体との交流感がなく、発表会のみだった為。



○「学生団体シンポジウム」の会場・時間配分について

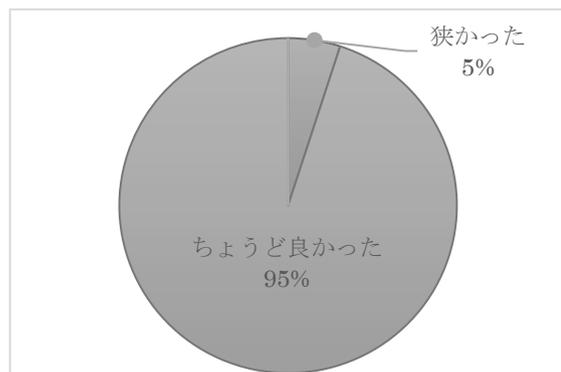
(1) 活動発表の時間

	回答数 (%)
A. 短かった	3 (14%)
B. ちょうど良かった	19 (86%)
C. 長かった	0 (0%)
D. その他	0 (0%)
計	22 (100%)



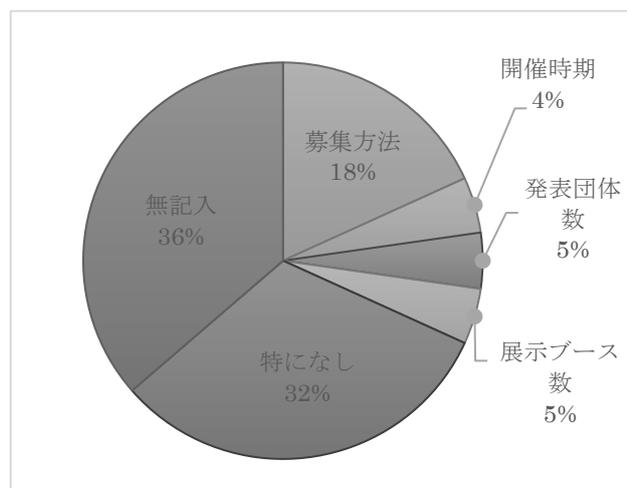
(2) ポスター展示ブースの広さ

	回答数 (%)
A. 狭かった	1 (5%)
B. ちょうど良かった	19 (86%)
C. 広かった	0 (0%)
D. その他	0 (0%)
E. 無記入	2 (9%)
計	22 (100%)



○「改善すべき」と感じた点（複数回答可）

	回答数 (%)
A. 募集方法	4 (18%)
B. 開催時期	1 (5%)
C. 開催場所	0 (0%)
D. パンフレット	0 (0%)
E. 発表団体数	1 (5%)
F. 展示ブース数	1 (5%)
G. 会場レイアウト	0 (0%)
H. 特になし	7 (32%)
I. 無記入	8 (36%)
計	22 (100%)



※【改善すべき点】の意見（一部抜粋）

- ・質疑応答の時間が短い。
- ・サークル全体に声掛けし、シンポジウムについて知っている団体を増やした方が良いと思う。
- ・活動についての質問や発言をしやすいするために、いくつかのブースで近い距離で交流できるようにすると良いと思う。
- ・もっと幅広く他大学の活動を知りたい、いい機会なのでもっと多くの学生や市民に訪れて欲しい。

○シンポジウム感想（一部抜粋）

- ・今回このような機会に参加することができ、新たに課題を発見できたのでよかった。
- ・それぞれ地域のためを思って活動していて、発見もあり、学びにもつながった。今年も来て良かった。
- ・今回初めて参加し、他の団体の発表を聞いて、こんな活動をしているのだと知り刺激を受けた。弘前は大学が多いので、その中で大学生活を送って同世代の人から刺激をもらえるため、弘前の大学を選んで良かったなと思った。
- ・色々な活動があって楽しかった。地域活性化になるため、様々な視点からアセスメントしていくことが大切だと思うため、今後も続けてほしい。
- ・他の団体が地域にどのような思いで貢献しているのか、どのような活動をしているのか知ることができて、ためになった。来年はもう少し参加団体が増え、よりにぎやかに、交流できる場になればいいなと思った。

5. 事業成果

会場には約30名の市民、学生、関係者が来場し賑わいを創出することができた。普段関わることが無い異なる大学の学生が意見交換を行うことで、互いの活動情報を共有することができた。

また、アップルストリームのLIVE配信では約130名の視聴があり、見逃し用のアーカイブ配信では約10日間（令和7年3月6日時点）で約150回の視聴があった。これにより、当日来場出来なかった市民の方にも広く活動内容を周知することが出来た。

6. 反省点・改善点

- 参加団体が少ない、もっと見たいとの意見が散見された。また、昨年よりも来場者数が減少したため、事業の周知について改めて検討したい。
- 学生間で交流できる場が質疑応答や休憩時間しか無かったため、意見交換があまりなされなかった。(アンケート意見あり)。発表の前後に学生間で交流できる時間を設ける等、学生が交流しやすい環境作り、工夫が必要。

ひろさき移動キャンパス

1. ひろさき移動キャンパスとは

本コンソーシアムを構成する5大学が共同で「学都ひろさき」の魅力を県外にアピールすることにより、弘前で学びたいという学生の増加を目指し、また、他地域コンソーシアムとの交流を深め、本コンソーシアムの充実を図ることを目的として、北海道函館市の「キャンパス・コンソーシアム函館（CCH）」が主催する「HAKODATEアカデミックリンク」に、本コンソーシアム構成機関の所属する学生団体がブース出展をする。

2. 概要

- 開催日
2024年11月10日（日）
- 会場
函館市青年センター（函館市千代台町27-5）
- 対象
中学生・高校生・一般市民・地元企業関係者ほか
- 内容
CCH加盟8校のブース発表、ステージ発表
特別参加の高等学校・大学の学生らによるブース発表
企業・団体によるブース発表



3. 出展内容

- チーム名
学生委員会「いしてまい」
- タイトル
より良い弘前を創る・発信する
- 内容

いしてまいとは「大学コンソーシアム学部ひろさき」に加盟している弘前市内5大学の学生が「弘前のために何ができるのか」を考え企画・実行をしている学生団体です。各大学教職員や弘前市役所職員のバックアップのもと、地域の自立と発展を図っていくことを目的としています。いしてまいは津軽弁で「良すぎて仕方がない」という意味を表しており「弘前市のことを知りたい」、「地域に関わった活動をしてみたい」という思いを持った学生たちが、日々楽しく活動しています。主な活動は「飲食店企画」、「衣類回収ボックス設置」、「伝統文化企画」、「弘前市博物館への取材活動」です。今回は活動の目的・手段・成果・今後の課題について発表しました。



4. 会場の様子



5. 参加による成果・効果（学生委員会からの報告）

他団体の活動を知り、自分らの活動を紹介できたことは、今後の活動への励みになり、また活動の幅を広げる機会となった。

6. 今後の活動に向けて

来年度もさらに充実した活動ができるように、今回得た経験を活かしていきたい。

学生委員会「いしてまい」活動

1. 飲食店紹介企画

(1) 企画の意義・必要性／期待される効果

弘前にある飲食店を学生が直接取材して SNS にて紹介することで、学生を中心とした弘前の人々が足を運ぶきっかけにしよう。

(2) 実施スケジュール

1	プリムヴェール	2024年7月20日投稿
---	---------	--------------



2. 衣類回収ボックス

(1) 企画の意義・必要性／期待される効果

昨年に引き続き衣類回収に取り組み SDGs への貢献を行いたいと考えた。ただ今年は活動へ参加できる人数が少ないこと、他団体から声をかけていただいたこともあり、他の衣類回収への協力という形で企画を進めた。また主要なリサイクルショップが両大学付近にないため、身近で衣類回収することによって、リサイクルに対するハードルを下げることが目的の一つとした。

(2) 実施スケジュール

1	古着大回収 in ひろさき	2024年7月14日
2	E festival いいフェス	2024年11月30日~12月1日



3. 弘前市立博物館への取材

(1) 企画の意義・必要性／期待される効果

学生目線で取材活動および情報発信することによって、弘前市立博物館が抱えている「より多くの学生に来館して欲しい」という課題解決の一翼を担う。また、来街者の増加にもつながることから、まちのにぎわい創出にも効果があると考える。

(2) 実施スケジュール 投稿はインスタへの投稿日

1	雛と兜	2024年4月11日投稿
2	博物館の初夏ものの語り	2024年6月26日投稿
3	発掘された日本列島 2024	2024年8月28日投稿
4	魯山人の宇宙-魂を削る美が欲しい-	2024年11月13日投稿
5	いのちなりけり 没後 250年 建部綾足	2024年12月10日取材済み





4. 伝統文化企画

(1) 企画の意義・必要性／期待される効果

弘前市内の伝統文化の取材・体験をし、SNSでの発信を行うことで、市内の大学に通う学生に対して弘前の魅力をさらに知ってもらおう。

○県内外出身者に対して弘前の伝統文化の魅力を発信する。

○実際に大学生である委員自身が取材・体験をすることで伝統文化をより身近なものとして感じてもらえるようにする。

(2) 実施内容

1	古作こぎんの小さな展示室 ゆめみるこぎん館	2024年7月24日
2	津軽天然藍染川崎染工場	2024年12月4日



5. 活動を通して

飲食店企画の課題として、大学周辺の飲食店を紹介してきたため候補が少なくなってきており、地域の拡大や情報収集の方法を検討する必要がある。またすべての企画において人手が足りないために投稿頻度や参加者に偏りがあることが課題に上がった。

ただ今年も全企画を行えたことはよかったので、今後も活動内容を検討しつつ、よりよい学生委員会にできたらと思う。

大学コンソーシアム学都ひろさき

令和6年度活動報告集

発行 令和7年3月31日
編集 大学コンソーシアム学都ひろさき
印刷 やまと印刷株式会社
弘前市神田4丁目4-5
TEL 0172-34-4111

構 成 機 関



弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1
[TEL] 0172-36-2111 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前学院大学

〒036-8577 青森県弘前市稔町13-1
[TEL] 0172-34-5211 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.hirogaku.ac.jp/>



柴田学園大学

〒036-8530 青森県弘前市清原1-1-16
[TEL] 0172-33-2289 (代表)
[ホームページURL]
<https://univ.shibata.ac.jp>



弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学短期大学部

〒036-8102 青森県弘前市小比内3-18-1
[TEL] 0172-27-1001 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.hirosakiuhw.jp/>



放送大学 青森学習センター

〒036-8003 弘前市駅前町9-20 ヒロ口4階
[TEL] 0172-38-0500 (代表)
[ホームページURL]
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/aomori/>

大学コンソーシアム学都ひろさき

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 (弘前大学社会連携部社会連携課内)
[TEL] 0172-39-3160 [FAX] 0172-39-3919 [E-mail] conso@hirosaki-u.ac.jp
<http://www.consortium-hirosaki.jp/>